

社会福祉法人翠燿会

令和6年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台南デイホーム
グリーンヒル八千代台キッズルーム
共生 café ふらっとホームグリーンヒル

障害児通所事業

グリーンヒルキッズ村上
グリーンヒルキッズゆりのき台
グリーンヒルキッズジュニア

自立援助ホーム

グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人本部総務課

令和7年5月

社会福祉法人 翠燿会

総括案 6年度の振り返り、7年度の方針共有。

社会福祉法人 翠耀会
常務理事 津川康二

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され5月8日で2年を迎えた。社会・経済の流れもパンデミック前の生活に戻りつつある中、施設において未だコロナ感染、インフルエンザA感染症がまん延し、総計100名(従事者含む)の感染者が発生するなど、注視が必要です。在宅・入所の高齢者支援のみならず、児童支援ふくめ、今後も感染症予防対策を図りつつ、ご利用児・者の健康を守りたい。

6年度4月報酬改定で1.59%のプラス改定となったが、人材確保がこれまでになく困難であることに加え、賃金の上昇、諸物価の高騰等も重なり法人の経営環境は非常に厳しい状況にある。

法人として、事業の見直し、再編をはじめ、3年に一度の報酬改定(公定価格)では時代の変化に対応していないことを地元自治体はじめ、千葉県、国へも強く訴えていきたい。

昨年も記載したが、現在の介護保険計画の進むべき方向性として、「重層的支援体制の構築」属性を問わない相談支援、地域づくりに向けた支援等に着目する。次に医療ケア、認知症ケアを要する高齢者のニーズは高い。さらなる医療と介護の連携の推進は、他の事業所になく、当グループ(医療法人社団恵仁会と翠耀会)の要である。地域包括ケアシステムの深化・推進を強化したい。

また介護報酬改正の大部分は処遇改善加算であった。国は一定の賃金改善を目指すもいまだ全産業平均賃金との格差は大きく、同時に介護人材確保の難しさも顕著でもある。が、この複数年パンデミックの中でも献身的にご利用児・者のサポートに専任し続ける従事者は270名を数える。

良質なサービス提供のために、研修計画の充実とあわせ、計画にそった利用稼働率を目指し、全職員の処遇改善を目指したい。

おわりに、八千代市の新たな3か年の保険料基準は月額5,640円で全国平均を下回る。しかしながら市内の介護事業所数は200か所を数え、施設系はサービス付き高齢者住宅、有料老人ホームを加え約50か所、通所系、訪問介護系も各々50か所とサービス供給体の激化は目立つ。(放課後等デイ事業も同様)

厳しい時代だからこそ、社会福祉法人としての使命・責任を全職員とともに再確認しあい、各事業に取り組んでいきたい。

なお、各事業の報告並びに今後の対策等は別紙のとおりである。

はじめに

令和7年5月26日、理事幹部職員と審議したポイント並びに修正を要すると指摘した箇所には下線又は二重線で示します。（*専門用語、聞きなれない用語には、注釈を入れ説明を加えるなども）提出期限があるため修正に至っていない点もありますが、協議審議の対象として確認ください。入所者、ご利用者へのケア・活動報告であること、ご家族へも同様、さらに地域への報告に加え、情報開示によりグリーンヒルを必要とされるすべての市民県民の方々が閲覧できる、大切な年度報告であることを再確認し、取り組んでまいります。

文責 津川康二

【令和6年度 特養・短期グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

・令和6年度に於ける稼働率(特養+短期)年間目標値115に対し、年間を通し113.2、平均稼働率94.4%という結果でした。令和6年度の入院延べ日数は959日、平均介護度4.1、要介護度4.5割合57.5%、認知度77.6%の数値。長期入所は38名を迎える事が出来ましたが、退所者が41名おり状態変化による急変や看取りケアを行い看取るご利用者も多数おられました。又、疾患などの医療度が高いご利用者も多く、施設での体調などの管理が難しく嘱託医の回診で、ご家族希望により入院に繋ぎながら多種職と協力し出来る限り施設での体調管理・生活支援を行っております。入所申し込み者が30~40名少なく、待機者家族へ連絡を行うと他施設入所や療養病棟へ移った・他界された等の話を受ける事が多い。又、日常生活継続支援加算を継続するために、介護度4.5申し込みは医療度が高く施設対応が難しい事から、認知度Ⅲa以上の待機者を中心に入所に繋げ対応を行う。

※令和6年4月平均介護度4.1⇒令和7年3月平均介護度3.9

申し込みを頂いた時点で、早急に事前面接を行い入所へ向けて候補者の確保に努め、病院・他事業所と連携し入所に向けて段取りを行い進めております。

※看取り 13名 急変対応 8名 入院中に他界 8名 長期入院 11名
他施設入所 1名

2) 組織体制の強化

・今年度もコロナウイルス・インフルエンザの感染症があり、今まで経験していなかった3丁目も対象となり、ゾーニング・隔離方法等試行錯誤し対応となりました。多種職の協力もあり短期間(18日間)での終息する事が出来ました。

3月には結核感染者が判明し、習志野保健所と連絡し感染者は入院治療開始し、他のご利用者・職員に関しては、習志野保健所の指示を仰ぎ対応。引き続き看護師と連携・協力し安全・安心して生活を送れるよう状態観察に努めます。

・生産性向上の取組みとして、記録のIT化は継続し対応しているが、介護ロボット・環境整備などが不十分であった為、次年度は補助金等活用し職員の負担軽減・ご利用者の安全安心に努める。

3) 介護指針の構築

- ・法定研修、外部研修に参加し個々に知識を得る事ができ、各会議等で発表し周知して頂く事が出来てきました。
- ・音楽療法(集団・個別)を取り組み、身体機能維持やメンタルケアに努めている。カラオケ等も取り入れ、レクリエーションにも繋げ対応している。

令和6年度 グリーンヒル特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
月末利用登録者	105	105	103	104	106	107	107	107	105	104	104	99	1,256	104.7
入所延日数	3,066	3,259	3,113	3,192	3,240	3,175	3,329	3,211	3,276	3,195	2,926	3,164	38,146	3,178.8
入院延日数	130	119	109	63	43	73	68	81	82	79	84	28	959	79.9
利用実日数	2,936	3,140	3,004	3,129	3,197	3,102	3,261	3,130	3,194	3,116	2,842	3,136	37,187	3,098.9
1日平均利用者数	97.9	101.3	100.1	104.3	103.1	103.4	105.2	104.3	103.0	100.5	101.5	101.2		102.2
平均介護度	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9		4.1
(介護度4・5割合)70%	73.8%	74.7%	74.9%	74.1%	73.0%	72.6%	73.2%	72.0%	72.4%	72.3%	69.7%	66.4%		72.4%
新規入所者数	6	4	2	4	4	3	3	1	2	2	5	3	39	3.3
日常生活継続支援加算 (介護度4・5割合)70%	59.1%	54.5%	68.4%	63.6%	60.9%	60.9%	55.0%	58.8%	58.8%	60.0%	50.0%	40.0%		57.5%
(内介護度4以上)	5	1	2	2	2	2	2	0	2	1	1	1	21	1.8
(内認知度Ⅲ以上)	6	1	2	3	2	3	0	1	2	1	4	2	27	2.3
退所者数	3	3	5	2	3	1	3	1	4	2	5	7	39	3.3
負担限度額認定者	52	50	50	48	42	49	50	48	48	47	46	45	575	47.9
短期請求件数	21	18	21	16	23	23	24	22	17	23	28	19	255	21.3
短期入所延日数	330	317	296	328	472	425	377	348	314	318	320	296	4,141	345.1
特養・短期合計延日数	3,266	3,457	3,300	3,457	3,669	3,527	3,638	3,478	3,508	3,434	3,162	3,432	41,328	3,444.0
特・短1日平均数(予算115人)	108.9	111.5	110.0	111.5	118.4	117.6	117.4	115.9	113.2	110.8	112.9	110.7		113.2
稼働率/120	90.7%	92.9%	91.7%	92.9%	98.6%	98.0%	97.8%	96.6%	94.3%	92.3%	94.1%	92.3%		94.4%
前年度稼働率	90.9%	89.0%	89.5%	91.5%	93.5%	90.6%	91.4%	92.4%	90.3%	89.0%	87.2%	89.2%		90.4%
前年度との比較	-0.2%	4.0%	2.1%	1.5%	5.2%	7.4%	6.4%	4.3%	4.0%	3.3%	6.9%	3.1%		4.0%

令和6年度 1丁目 すずらんフロア 事業計画実績

I. 介護理念

【安心しながら楽しみを持った生活】

- ・ 工作やおやつ作りやカラオケ等、楽しみを持っていただく事ができた。
- ・ 感染症の発生や対応により不安にさせてしまう事があった。

II. ケアの重点項目

【メリハリのある生活】

- 朝の集いや音楽療法を行い、季節感を感じて頂きます。
- ご利用者一人ひとりが楽しみを持てるよう、アセスメントを行い、日々の会話より趣味、嗜好に合った誕生会、企画を実施していきます
- 月一回カラオケの時間を設定し、活気のある時間を提供します。
 - ・朝の集いの継続と音楽療法・体操の実施により、身体を動かし声を出す機会を作ることができた。
 - ・ご利用者全員の嗜好に合わせる事が毎日ではできなかつたが、状態・要求把握に努めることにより、嗜好に沿った企画は前年度に比べ、でき始めてきた。
 - ・月1回と決めて実施することはできなかつたが、度々カラオケを実施、参加を促すことにより楽しみの時間を提供することができた。

【ご利用者との信頼関係を築く】

- ユマニチュードを全員が理解し実践していくことで、ご利用者に安心した生活を提供します。
- 生産性向上委員会と連携し、業務の効率化を図り、ご利用者様にゆったりとした時間を提供します。

※ユマニチュード

- 四つの柱 1. 見る（水平、正面、近く） 2. 話す（優しく、穏やかに。ケアの内容を実況）
3. 触れる（感度が低い部位から、広い面積、ゆっくり優しく）
4. 立つ（立つ時間をつくる）

- ・ユマニチュードを理解し、ご利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができ、信頼関係構築につなげることができた。
- ・業務の効率化を図ってきたが、その日によって職員の人数が同じではないので、ゆったりした時間を作ることができたりできなかつたりした。
- ・感情的に対応してしまう事があり、改善していきたい。

【清潔感のある空間作り】

- 感染症対応マニュアルを基に、わかばのテーブル、ご利用者様、全職員の手指の消毒を行なうことで、感染症の発生を抑え、清潔で安心して過ごせる環境を提供します。
- フロアの整理整頓を行ない、ご利用者様、ご家族様にとって快適な面会を提供します。
 - ・消毒や換気等、環境に気を使い実施してきたが、感染症の発生を完全に防ぐことはできなかつた。一方で昨年度に比べて、落ち着いて対応することができた。
 - ・整理整頓に関して不十分であることは否めない。

Ⅲ. チーム目標

○ご利用者一人ひとりに尊厳を持って、ゆっくりと寄り添った声掛けを行なっていきます。

- ・終末期にご利用者だけでなくご家族と直接対話することができた。
- ・忙しい時ご利用者に対して丁寧ではない言葉遣いで介助を行ってしまった。
- ・ご利用者と積極的に話をすることができた。引き続きコミュニケーションを大切にしていきたい。

【来年度への反省】

I. 介護理念

- ・工作・おやつ作り・カラオケ・体操等実施することができた。今後、もっとご利用者の要望や能力に沿ったものを考え実施する。
- ・さまざまな感染症が発生してしまったが、最小限にとどめる事ができた。引き続き、発生の予防と早期発見・対応に努める。

II. ケアの重点項目

【メリハリのある生活】

- ・朝の集い・音楽療法・体操と実施できたが、毎日同じような内容になってしまっている。新しい物を考え導入を検討する。
- ・少しずつご利用者の嗜好に沿うことができているので、引き続き要望・要求の把握に努め、実施に尽力する。
- ・カラオケ以外の娯楽(映画鑑賞・レクリエーション等)の実施により楽しみを増やす。

【ご利用者との信頼関係を築く】

- ・ご利用者とのコミュニケーションに努めていたが、日々変化がある。一日一日を大切にケアを行う。
- ・人員不足を理由にせず、いない時にはその時なりに良い一日を提供できるように職員間の連携を心掛ける。

【清潔感のある空間作り】

- ・感染症発生を防ぐことは難しい。感染症に対する知識を身に付けることにより冷静・適切な行動ができることを目標にする。
- ・整理整頓が不十分であるが、ケアワーカーのみ、ご利用者のみではなく一緒に身の回りの整理ができるようにする。

Ⅲ. チーム目標

- ・終末期に向けて、元気なうちから相談することにより、要望を叶え、尊厳を持った最期を迎えられるようにする。
- ・認知症の方の介助に困難な時は、時間をおく、他職員に交代する等の対応を行う。
- ・コミュニケーションは大切であることを再認識した。言語コミュニケーションだけでなく非言語コミュニケーションも取り入れてケアに生かしていく。

令和6年度 1丁目 あやめフロア 事業計画実績

I. 介護理念

【基本的なケアを大切にし、状態の重度化を防ぐ】

- ・声掛けやアイコンタクト等を行い、丁寧なケアの実施に努めた。
- ・亡くなるご利用者や新規のご利用者と変化が多く、個々の重度化が防げていたかは疑問。

II. ケアの重点項目

【身体ケア】

- 臥床時及び2時間おきに体位交換・ポジショニングを実施して皮膚トラブルの発生防止と早期改善を行う。
- おやつの前後の時間を使って離床を行ない、拘縮の改善と悪化防止を図る。
- 事故発生時やフロア会議において、発見者や担当を交えて対策を協議・共有化し、同じような事故の発生を防ぐ。
- 事前にご本人の意向を把握し、最期の時にご本人の意向に沿った看取りケアを行なう。
 - ・少なからず皮膚トラブルは発生してしまったが、早期発見と処置・除圧等を実施することにより改善もしくは改善傾向にできた。
 - ・感染症の発生、介護度の重度化等あり難しい状況ではあったが、昨年よりも意識的に離床を行うことができた。しかし、拘縮の進行がみられており不十分だった。
 - ・事故の発生を完全に防ぐことはできなかったが、意思疎通・連携に努め、事故防止につなげることはできた。
 - ・元気な時のご利用者の意思確認が不十分で看取りケアの際に『もっとできることがあったのではないか？』と思うこともあった。

【環境】

- 担当ご利用者のベッド周り・タンス等の環境を作り・維持する事により、気持ち良く生活していただくと共に感染症の発生を予防する。
- 季節のイベントを行い、フロア外にお連れして季節の変化を感じて頂く。
- 個別音楽療法を実施することにより、重度の方・看取り期の方の不安軽減を行う。
 - ・今年度もインフルエンザ、コロナ感染症が発生したが、拡大は最小限に防ぐことができた。
 - ・企画(スイカ割・クリスマス・ししまい)や中庭で外気浴を行い季節を感じて頂けた。
 - ・音楽療法は先生にお任せしてしまい、連携が必要であった。

【コミュニケーション】

- ご利用者に対して声かけだけでなく、身振り・手振りも活用してコミュニケーションを図る。また、タブレット端末などのツールを使用・工夫する。
- 重度の方にも楽しんでいただける企画を実践し、楽しみのある生活を送って頂く。
(誕生会・企画・その他おやつ前後の時間で実施)
- 日々のコミュニケーションの中での気づきを大切にし、日誌・連絡帳・フロア会議で情報共有することにより、その人のためのケアを実践していく。

- ・コミュニケーションを円滑に行う為に、声だけでなく文字や身振り・手振りを活用した。十分に伝わっていることもあれば伝わらないこともあった。
- ・各々考えて企画を実施してきたが、重度のご利用者に対してもっとできることがあったのではないか。
- ・状態の細かな部分の把握がなかなかできなかったが、徐々にできるようになってきた。

Ⅲ. チーム目標

- お互いの事を考えて連携を図ると共に、ご利用者の為になるケアを行ない、より良い時間を過ごして頂く。
- 一人ひとりがご利用者の状態を把握して、ケアのムラを軽減し、サービス向上を図る。
- 最期の時まで穏やかに過ごしていただけるよう、ご本人の意向を尊重し、室内の環境を整え、音楽セラピーにより不安や苦痛の軽減を図り、安楽な介護を心掛ける。
 - ・職員間連携は十分に行うことができたが、それによりできた時間を全てご利用者の為に使うことができたかには疑問が残る。
 - ・情報の発信と把握・共有に努めていたが、個々の情報把握状況にバラツキがあり、発信方法・把握方法共に改善が必要。
 - ・対応に苦慮したご利用者を最期まで看取ることができた。ご家族からお礼を言っていた頂き、励みになった。
 - ・ご利用者一人ひとりの状態にあったケア・職員間の情報の共有・快適に過ごして頂ける環境の整備・人材不足と育成等、課題は残っている。

【来年度への反省】

I. 介護理念

- ・丁寧なケアの実施に努めたが、時間や環境等要因もあり、ところどころ粗雑になっていることは否めない。来年度は生産性向上を図り業務改善をおこなう。
- ・ご利用者の変化に追いつくために、状態把握の徹底、および把握方法の検討を行ない、その方の変化に合わせたケアを少しでも早く実施する。

II. ケアの重点項目

【身体ケア】

- ・皮膚トラブルと拘縮の発生・進行が見られている。それを防ぐために離床の増加(寝かせきりからの脱却)と体位交換・ポジショニングの調整を行なう。
- ・事故の発生に対して迅速かつ統一された対応により、ご利用者の自由を阻害しない事・最小限にとどめる事を目標にケアを行う。
- ・ご利用者の意思確認に努め、最期の時に希望に沿ったケアを行えるようにする。

【環境】

- ・感染症の発生を完全に防ぐことは難しい。しかし、感染症の情報・知識を身に付け、経験を積むことにより冷静で適切な対応を行なえるようにする。

- ・フロア企画がご利用者のニーズに合ったものか分からない。今後のご利用者の意見を更に取り入れつつ実施して行く。

【コミュニケーション】

- ・重度の方・リアクションの薄い方に対しての関わりが不十分である。声掛け・離床・散歩等ご利用者との時間を大切にする。

Ⅲ. チーム目標

- ・職員間連携は行えているので、時間の使い方を検証し、ご利用者のケア・楽しみにつなげられるようにする。
- ・技能実習生が、情報把握は困難な事があるので、発信方法の工夫（ブルーオーシャンの翻訳等）統一を行い、把握方法の改善に向けて発信者・受信者、双方で情報共有の為に努力していく。
- ・更なる看取りケアの向上のために環境・技術の向上に努める。
- ・環境の整備・人材不足と育成等の課題がある。一人ひとりの能力向上だけでなく、チームケアであることを意識してそれぞれの長所を生かし、短所を補えるよう連携を強めていく。

事業計画実績

I. 介護理念

【一人ひとりとの関わりを大切にする】

- ・担当のご利用者とは、なるべく本人の気持ちを聞くように心掛け、関わる事ができました。

II. ケアの重点項目

【楽しみのある生活を送る】

- ・企画では外出機会が増え、誕生会もご利用者と相談しながら行えました。
- ・夕方行う体操はご利用者にも定着し楽しみにされているので、今後も・続けていきたい。

【清潔感のある空間を心掛ける】

- ・こまめに窓の開け閉めを行うなど換気は行えた。

III. チーム目標

【日々のご利用者との関りを通し、ご利用者の気持ちに沿った介護を行っていく。】

- ・ご利用者の要望を聞き、季節に沿った外出やお楽しみ会などの企画を行うことはできました。
- ・業務が多く、日々の中でご利用者との関りは足りていなかったが、各担当ご利用者との関りは意識して行えました。

来年度への反省点

I. 介護理念

【一人ひとりとの関わりを大切にする】

- ・業務中にご利用者と関わる時間を作るのが難しかった。業務の見直しを行い時間を作り、来期はもっと散歩やレクを行いたい。

II. ケアの重点項目

【楽しみのある生活を送る】

- ・移動スーパーを利用したいご利用者はいるが、時間が作れず移動スーパーにご利用者をお連れすることができなかった。今後は仕事の内容や時間配分を工夫して、ご利用者を連れていけるように考えていきたい。

【清潔感のある空間を心掛ける】

- ・ベッド周り等の片付けに注意していたが、業務中心に動いてしまい整理整頓ができていない時があった。日頃から意識していく事が必要と感じる。

III. チーム目標

【日々のご利用者との関りを通し、ご利用者の気持ちに沿った介護を行っていく。】

- ・業務の見直し仕事の分担を行い、ご利用者との関りの時間を作っていく、コミュニケーションをとることで、ご利用者の気持ちを知り介護を行っていく。

撫子 事業計画令和6年度実績

事業計画実績

I. 介護理念

『一日一日を安心して過ごせ、ゆとりある環境を形成していく』

- ・担当利用者に日々声掛けする事で信頼関係を築き、体調などの変化に気付くことができ、早期の問題解決につながられた。
- ・職員同士の声掛けが少なく、ご利用者に対するケアが統一できなかつた。

II. ケアの重点項目

【周りを見る】

- ・自分では見守りをしていると思っていたが、ご利用者が立ち上がり、歩かれていることに気付くのに遅くなり対応が遅れてしまった。
- ・ご利用者の近くで情報交換を行ってしまい、プライバシーに配慮できていなかった。
- ・ブルーオーシャンシステムへ記録する事に集中し、周りをみることができていなかった。
- ・一定のご利用者のみ話し掛けることが多く、周りがみえていない職員もいた。

【楽しみのある日常生活】

- ・担当利用者と話しながら意向に沿った誕生日企画を行い、喜ばれていた。
- ・体操レクは定着していた。

【連携を図り、迅速な対応を】

- ・日々の業務や会議等でご利用者に対しどのような対応をするべきか、積極的に提案をするようになったが、情報が伝わりきれず共有されない事もあった。
- ・みどりの環境整備が整わなかった。(物の整理や片付け)

III. チーム目標

【自分だけの業務だけを見るのではなく、業務全体の流れを見て、お互いにフォローしあいながら、ひとつのチームを作っていく、ユマニチュードを実践していくことで利用者、職員、がともに笑って過ごせる日々を目指していく】

※ユマニチュード

四つの柱 1. 見る (水平、正面、近く) 2. 話す (優しく、穏やかに。ケアの内容を実況) 3. 触れる (感度が低い部位から、広い面積、ゆっくり優しく)
4. 立つ (立つ時間をつくる)

- ・情報共有を行いながら、各担当・所属フロアとしてどういった対応をすべきか話し合いながら行っていた。
- ・業務全体をみてフォローはできたが、自分に余裕がもてなくなってしまった。
- ・ユマニチュードを学びながらも、現場で実践するのが難しかった。

来年度への反省点

I. 介護理念

『一日一日を安心して過ごせ、ゆとりある環境を形成していく』

- ・業務全体の流れを見直して、ゆとりが持てる勤務体制を編成していく。
- ・ご利用者にこまめな声掛けをして、体調の変化などに気付けるよう心掛ける。

II. ケアの重点項目

【周りを見る】

- ・ブルーオーシャンシステムへの記録に集中しすぎないように、周りとう声を掛け合いフォローしあえる環境を整えていく。
- ・情報共有をする際は、プライバシーに配慮した会話を行い、ご利用者・職員ともに不快にならないよう気を付けていく。
- ・職員間同士で注意しあえる環境を作っていく。

【楽しみのある日常生活】

- ・体操レクは継続し、ご利用者の活性化やADL維持につなげつつ、より多くのレクができるようにしていく。
- ・外出企画でご利用者の気分転換の場を増やしていき、誕生日企画は各担当がご利用者の思いに沿った企画を行う。
- ・時間に余裕がある際は別のレク（頭の体操や体を使った運動など）が行えるようにする。

【連携を図り、迅速な対応を】

- ・職員間同士で情報共有を行いながら、ご利用者に対していち早く対応ができるよう他職種との連携、検証を行っていく。
- ・連絡帳だけでなく口頭でも情報共有を行い、統一ケアを目指す。

III. チーム目標

【自分だけの業務だけを見るのではなく、業務全体の流れを見て、お互いにフォローしあいながら、ひとつのチームを作っていき、ユマニチュードを実践していくことで利用者、職員、がともに笑って過ごせる日々を目指していく】

- ・お互いの業務内容を理解・把握し、より良いチームケアの向上に繋げる。
- ・ユマニチュードを学び、現場で実践できるようにする。

3 丁目 令和 6 年度 事業計画実績

I. 介護理念

【 QOL の向上 ～過去の生活を基に現在へ～ 】

- ・ 新型コロナウイルス、インフルエンザ A 型の感染が広まってしまい、理想とする QOL 向上を目的としたケアが行えない日々が続いてしまった。
施設全体で感染症対策に取り組むことで、ご利用者様への負担を最小限にできたことは良かった。
- ・ 感染症対策に関して、設備構造上の問題（換気設備が無い）多床室ならではの問題、認知症高齢者の感染対策の難しさ、職員の感染症に対する知識・技術・能力不足、など様々な課題が把握できた。
- ・ 昨年度の反省点であり、今年度のチーム目標でもあった「ブルーオーシャンシステムを活用」する事ができた。記録を活用する事で職員全員がアセスメント表を参照し、ご利用者様の生活歴を把握 QOL 向上に活かす事ができた。

II. ケアの重点項目

【 生産性の向上 】

- ・ 生産性向上委員会を中心に「無理・無駄・ムラ」を省き、業務改善を実施できた。又、業務が円滑になった事で、ご利用者様と憩いの時間を確保することができた。
- ・ 設備構造上、ICT を導入して生産性の向上を図ることが難しかった。
※詳細を下記①～④に一部まとめる
 - ① NS コールシステム（アイホン）設備がない。
 - ② ホール内に食器洗浄可能な水の確保ができない。（飲水可能な水がない）
 - ③ 浴室に機械浴がない。
 - ④ 換気システムが窓の開閉だけしかない（換気扇がない）。
- ・ フォローアップ研修を活用、毎月の会議で「ユニット学習」の実施、各自が外部研修に参加する事で各々が自己研鑽を行える環境は作れた。
- ・ 職員個々のモチベーションを上げる施策を考え実践に至らなかったため、職員の「学ぶ姿勢」に差が生じてしまった。
- ・ 日々の業務の中でもご利用者様から学び、ケアに活用する姿が見受けられた。
- ・ 各種マニュアルが古いので見直しを実施（指導監査時）更新・職員への指導が足りていなかった。

【 余暇活動の充実 】

- ・ 全居室担当者が、ご利用者様一人ひとりの生活歴を基に個別性を重視して、一人ひとりの趣味嗜好に沿った誕生会の企画・実施ができていた。その中でご利用者様に多くの笑顔がみられていた。
- ・ 業務改善に伴い、余暇活動の充実が図れた。個別のレクリエーションを行えたことが成果として挙げられる。
- ・ 多忙な業務の中でも、タブレット等を活用して余暇活動の充実は図れた事は良かったが、一方で体を動かさない、寝たきりのご利用者様への配慮や工夫、レクの実施が足りていなかった。
- ・ 職員のレクリエーション活動・夕方の体操も画一的であり、真新しいことにチャレンジする事ができていなかった。

【 日常生活動作（ADL）の維持 】

- ・加齢に伴う筋力・バランス機能の低下は人体構造上、致し方ない事ではあるが、理学療法士に指導を仰ぎ、個別機能訓練の実施・ご利用者様一人ひとりの疾患・身体的特徴に合わせたケアが行えた。日常生活動作の中で、ご利用者様の残存機能・ADL維持に努めることができた。
- ・転倒による骨折事例が発生してしまい、著しく日常生活動作が低下してしまったケースがあったが職員一丸となり多職種で協同しADLの向上に努めることができた。
- ・感染症拡大があり隔離生活を余儀なくされてしまい、すべての利用者様に合わせた椅子・テーブルの購入と選定が間に合わなかった。※施設内に元々あった備品（家具）を使用し、数名の利用者様の選定と実践はできた。
- ・介助を行う際に「過剰介護（ご利用者様が出来る事まで介助する）」が多く見受けられていた。ご利用者様一人ひとりのできる事を職員の都合で介助してしまう場面があった。長年の介護経験があるが故の価値観（古い介護・経験則）を変えることができなかった。

III. チーム目標

- ご利用者様の尊厳を尊重し、ハートフルな声掛けとコミュニケーションを行います。
 - ・ハートフルな声掛けは実践できていたが、長年一緒に過ごしているが故に、ご利用者様との距離が近くなり過ぎてしまい、声掛けが煩雑になってしまう場面もあった。
 - ・ご利用者様主体の声掛けを心掛けて実践出来ていた。転倒リスクの高い方が多く入所されており安全面を優先して職員の声掛けがご利用者様主体にそぐわない場面もあった。
 - ・職員の介護技術・介護経験の差が明白になった。
- ブルーオーシャンシステムを活用し、情報の共有を図る事でケアの改善と向上に努めます。
 - ・前述した通りの活用ができていたが、まだ紙ベースにしている書面もあった。
 - ・記録を細かく、誰が見ても分かりやすい記録を入力できない職員もいた。
 - ・記録を見る、情報を得る事はしていたが、ケア改善に活かす事ができていない職員が多かった。
 - ・多職種との情報共有には活用できていた。
- ご利用者様と職員の双方がWIN×WINの関係性を構築できるように努めます。
 - ・生産性向上を通じて業務の簡略化・改善を行い、余暇活動を実施できる環境がくれたので良い傾向であった。
 - ・職員が良いケア（質の高いケア）を行う事でご利用者様に安心して頂き、職員とご利用者様の信頼関係も構築できており、ケア介入がスムーズになっていた。
 - ・介護職側のWINとご利用者様側のWINを理解しケア介入していた。

『来年度への反省点』

I. 介護理念

【 QOLの向上 ～過去の生活を基に現在へ～ 】

- ・感染拡大があり、普段の生活が送れなかったことが大きな反省点である。
来年度は今年度の反省点を活かし感染症の予防に努め、ご利用者様が安心・安全に生活できるよう尽力していく。
- ・来年度は「自発的に考え、自発的に行動を起こし、評価・再検討できる介護士」の育成を行う。
人材確保と人材育成の方法を再構築し、職員の質・ケアの質向上に努める。

II. ケアの重点項目

【 生産性の向上 】

- ・設備構造上の問題、課題は代替案を検討、創意工夫を凝らし生産性向上を行っていく。
- ・各種マニュアルの随時見直しと更新を行い、職員へ周知を図る必要性がある。
マニュアルを基に円滑な業務が行なえる職場環境を整える。並行して必要な ICT の導入に関して積極的に検討・導入し、業務の改善を図り生産性向上に努めていく。
- ・研修で学んだことを他職員に伝える場がないので、研修参加者は会議の場などで発表。自己学習を深めていただくとともに、他職員の介護力の向上を行う。

【 余暇活動の充実 】

- ・毎回レクを実施しているご利用者様が同じご利用者様になっていることを反省する。
すべてのご利用者様に万遍なく余暇活動を提供できるシステム・組織作りが課題であり、
来年度に取り組むべき事である。又、職員全員がレクリエーション技術を学び、実施できるよう自己研鑽に努めていく。

【 日常生活動作（ADL）の維持 】

- ・転倒事例により著しい ADL の低下を招いてしまったことを深く反省し再発の防止に努める。
来年度も引き続き「事故防止」と「ADL の維持向上」を関連付けてケアを行っていく。
- ・ご利用者様の残存機能を正確に把握する事が大前提であり、そのうえでご利用者様にできる事は行って頂く（残存機能の維持）又、ご利用者様が 1 人で出来るように工夫をする（環境の整備）
なぜ出来ないのか？ どうしたらできるのか？を常に考え、ご利用者様の日常生活が豊かになる様、
努めていく。

III. チーム目標

- ご利用者様の尊厳を尊重し、ハートフルな声掛けとコミュニケーションを行います。
 - ・リーダー職を中心に指導・教育方法を見直し、適宜指導・助言を行い、来年度は今年度より良い声掛けコミュニケーションが実践できる 3 丁目にしていく。
- ブルーオーシャンシステムを活用し、情報の共有を図る事でケアの改善と向上に努めます。
 - ・ブルーオーシャンに関しては活用する事が出来始めている。
記録を見る⇒ケアに活用する⇒ケアを評価する⇒ケアを再検討する。一連の PDCA サイクルが出来始めており、来年度も継続して IT を活用し、ご利用者様のケアの質向上に活用していく。
又、IT に苦手意識を持っている職員に指導・助言を行う事でさらなるケアの質向上を目指す。
- ご利用者様と職員の双方が WIN×WIN の関係性を構築できるように努めます。
 - ・来年度も引き続き全職員が積極的にコミュニケーションを図り、職員全員がご利用者様との信頼関係を構築できるように努めていく。
 - ・ご利用者様の望んでいる事（WIN）をアセスメント表・日々の記録を参照、ご家族様への聞き取りを適宜行い、ご利用者様 1 人 1 人が何を望み、何をしてほしいのか？を職員が把握、日々のケアに活用していく。

令和6年度事業報告書

グリーンヒル上高野 医務課

新規入所者 38 名

退所者 41 名 { 看取り 13 名、老衰 7 名、急性心不全 1 名
入院中の永眠 8 名、長期入院 11 名、他の施設 1 名

感染症罹患者 { コロナ 45 名 (R6.11/6~12/9)
インフルエンザ 27 名 (R6.12/25~R7. 1/16)
肺結核 1 名 (R7. 3/26)

医療的ニーズが高く高齢の利用者が増え長期入院、入院中に永眠された方が多かった。

今年度も季節性感染症が流行しクラスターになってしまいましたが、これまでの経験と対応、全職員の協力により早期隔離解除することが出来ました。

今年に入ってから思いもかけず、肺結核罹患者が見付き、うろたえてしまいましたが他職種、協力病院、習志野保健所と連携を取りながら対応しています。

今年度も基本的感染症対策の継続、利用者が安全、安楽な生活が送れるように努めていきます。

令和6年度 管理部栄養課 事業実績報告

栄養課の理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

令和7年度
利用者食事摂取推奨量
(2025年度版、日本人の食事摂取基準に準拠)

GH	令和7年 4月1日 現在
エネルギー	1697Kcal
蛋白質	67.8g

GH八千代台	令和7年, 4月1日 現在
エネルギー	1752Kcal
蛋白質	65.7g

令和6年4月～令和7年3月における利用者の実態

令和7年度 グリーンヒル入所計画				令和7年度 グリーンヒル八千代台入所計画			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	28 名	74 名		入所者	6 名	21 名	
年齢	80.6 歳	88.8 歳	84.7 歳	年齢	88.5 歳	90.3 歳	89.4 歳
介護度	3.9	3.9	3.9	介護度	4.3	4.3	4.3

令和6年度 グリーンヒル入所者実績				令和6年度 グリーンヒル八千代台			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	25 名	75 名		入所者	6 名	23 名	
年齢	78.8 歳	88.9 歳	83.9 歳	年齢	86.7 歳	89.2 歳	87.9 歳
介護度	3.9	4.2	4.1	介護度	4.3	4.5	4.4

令和5年、令和6年における
食数実績・目標数

食数実績	グリーンヒル			合計	グリーンヒル八千代台			合計	グリーンヒル 特養・通所 グリーンヒル 八千代台特 養・小規模多 機能	総合計食数
令和6年度	利用者	128492 食		136250 食	利用者	55771 食		61516 食		197766 食
	職員	7758 食			職員	5745 食				
令和5年度	利用者	123949 食		132019 食	利用者	56876 食		62785 食		194804 食
	職員	8070 食			職員	5909 食				

フードサービス形態
クックチル
A セントラルキッチン

給食業務完全委託方式
A グリーンヒル特養・通所
グリーンヒル八千代台特養
B 給食業務直営方式
グリーンヒル八千代台・小規模多機能

A方式の帳票類は別途区分管理とする
・災害時発生時、食中毒・感染症発生時、グリーンヒル・グリーンヒル八千代台に属するマニュアルに準拠するように業務契約(BCP対策)を締結した
・大量調理施設マニュアルに準じる
・食品衛生法の衛生安全管理の維持徹底(HACCP方式導入 R3.6月)
・特別な個別膳(ミキサー食)(やわらぎ膳 有料)看取り膳
・保存食・公衆衛生の実施(厨房内消毒4回/年・クリスタップ 1回/年)
院外調理(ひまわり)→小規模施設(サテライトキッチン)
配膳・調理従事者の衛生管理(細菌検査 18回/年)
・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表策定している
・特定給食施設栄養管理
巡回指導実施 千葉県習志野福祉センター グリーンヒル 実施なし
グリーンヒル八千代台実施なし

非常用食品の確保

・災害対策マニュアル策定
・天災害時の調理を必要としない
備蓄食品

行事食

・施設諸行事に伴う食事支援

感染症対策マニュアル策定 BCP R3.3月
・敬老会祝い膳
グリーンヒル 利用者 特養 107食 通所 75食 職員 57食 家族47食
グリーンヒル八千代台 利用者52食 職員7食 家族・来賓20食
・嗜好(刺身)1名 個人購入管理
グリーンヒル
定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年
グリーンヒル八千代台
日時不定期 1回/月

会議

栄養委員会
・給食会議
・NCM会議(低栄養者及びケアプラン委員会と)

栄養ケア・マネジメント
栄養管理

基本方針
I. 栄養ケアマネジメント 全利用者実施
4回/年スクリーニング実施
II. 経口維持実施
経口移行 I, II
(医師・歯科医師による評価者)
III. LIFE厚生労働省へ送信
科学的介護情報システム(LIFE)
栄養マネジメント強化加算
管理栄養士 新規1名配置

①栄養マネジメント強化加算(管理栄養士体制整備 GH3名 GH八2名)
・LIFEデータ→厚生労働省提出
GH 3月、6月、9月、12月(要件に準ずる3か月送信)
GH八 毎月(情報提供任意)
・IT化ブルーオーシャン情報共有
・生活と身体 の状況記録(介護・看護・栄養記録)
内容 身体計測、摂取目標量、摂取状況調査項目
栄養アセスメント・栄養ケア計画書(施設版)
*食事調査表は利用者の共有個別資料とする。
(但し、持ち出し禁止、厳守)
②低栄養リスクの改善として、栄養計画による
・食事・栄養管理、評価判定を行う。
・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する
(但し、個別管理品は個人負担とする)
ONS栄養強化 GH18名 GH八7名(個人購入)
※ONS:経口的栄養補助
③看取り(EOL食 I、II、III期)実施

令和6年度の報告及び考課

①教育研修計画
・栄養ケアシステムの向上
②高齢者施設監査
③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、グリーンヒル八千代台
・調理チーム結成(小規模多機能 サテライト グリーンヒル八千代台南テイクホーム)(R4.5)
方式(CK)(SK)との業務は分離独自型
供食対象:利用者食・職員食
グリーンヒル南テイクホーム
グリーンヒルから グリーンヒル八千代台へ
移管
④施設管理栄養士のシフト体制
⑤給食栄養利用者向け広報誌発行
⑥臨地実習実施

・利用者全員の看護、介護、栄養の情報伝達の生活向上委員会などに出席した
・NCMスタディ(管理栄養士5名)随時開催(給食・栄養管理の専門性向上目的)
内容:症例検討・栄養情報書作成
・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 GH指摘事項なし
・給食経営管理部門としてクックチル方式全面委託化
業務委託、食材料費委託 クックサーブ方式
及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能
・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など
グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、分離区分を共有化した
※CK=セントラルキッチン SK=サテライトキッチン
・グリーンヒル 8:30～17:30(2名)9:30～16:30(1名)
・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30 9:30～18:30(勤務体制)
(ふらっとホーム開催日1回/週)
“食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年発行
・昭和女子大学臨地実習 3年生 R6.9/13～17(2名)

以上

令和6年度 事業報告

グリーンヒル指定居宅介護支援事業所

1. 目標に対して稼働件数
 - ・ 計画作成数・・・給付管理件数 98名（月平均）
総合事業委託請求件数 12名（月平均）
 - ・ 目標稼働率・・・81%。
2. 事業継続計画（BCP）について
策定済み。研修、シュミレーション実施済み。
3. 虐待防止、ハラスメントの指針策定済み。研修実施済み。
4. 情報共有及びスキルアップについて
地域のケアマネのスキルアップとして他事業所との合同事例検討会を開催。
ケアマネネット研修等（外部研修）に参加し、他事業所との情報共有が増え、各個人のスキルアップが向上した。
5. ICT（タブレット）を有効に活用し業務短縮となっている。

— 総括 —

目標件数に関しては達成できなかった。管理者の交代もあり、致し方ないことではあるが、その後の人材確保も難しい状態となっている。「特定事業所加算Ⅲ」となってしまった上、新規ケースも断らざるを得ない状態が続いている。

現在、在籍しているケアマネがより意欲を持って仕事に取り込めるよう研修機会の確保や環境を整えることは当然として、新たな人材が確保できた時にも、定着できるようバックアップをより強化していきたい。

令和6年度事業報告

グリーンヒル通所介護

令和6年度利用状況（本体通所介護）

今年度は、一日の平均利用者数 23 名を目標にサービスを行ってきましたが、年間を通しての一日利用者の平均としては 19.0 名と前年度より 1.6 名の減、年間の延べ利用者数は 5,886 人で前年度より 450 人程減となってしまった。

一年間での新規利用者数は、8 名程で厳しい現状でした。また、利用中止者の人数が 24 名以上となってしまい、登録数が大幅に減ってしまい全体的に厳しい状況でした。そのような状況の中、今年度は人件費の削減などから、年間の収入は減となりましたが、収支としては黒字となっているが、7年度は、現在の職員体制を踏まえながら登録数を増やしていければと思います。

令和6年度 グリーンヒル デイサービス 実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
登録人数	62	62	60	58	55	54	54	52	51	47	44	43	642.0	53.5
利用者数	57	57	54	55	52	51	51	48	48	43	41	38	595.0	49.6
新規利用者	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	7.0	0.6
登録中止利用者数	2	1	1	2	3	2	0	2	2	3	3	3	24.0	2.0
運営日	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	24	26	309.0	25.8
延べ人数	569	578	510	549	519	514	523	460	458	411	378	417	5,886.0	490.5
総合事業人数	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3	33.0	2.8
													0.0	0.0
要介護人数	54	54	51	53	50	49	48	45	45	40	38	35	562.0	46.8
合計	57	57	54	55	52	51	51	48	48	43	41	38	595.0	49.6
平均介護度	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5		2.4
1日平均利用者数(予算26人)	21.9	21.4	20.4	20.3	19.2	20.6	19.4	17.7	18.3	17.1	15.8	16.0		19.0
前年平均利用者数	21.4	20.8	20.7	20.0	20.5	21.7	22.2	22.4	21.2	19.1	19.6	17.6		20.6
介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1
要支援2	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2	21	2
要介護1	6	7	6	7	8	8	7	7	8	7	7	7	85	7
要介護2	28	27	26	28	23	21	20	16	15	12	12	11	239	20
要介護3	14	12	12	11	13	14	16	16	15	15	13	11	162	14
要介護4	4	5	5	4	3	2	1	0	0	0	0	1	25	2
要介護5	2	3	2	3	3	4	4	6	7	6	5	5	50	4
人数	57	57	54	55	52	51	51	48	48	43	41	38	595	49.6

令和6年度訪問介護事業所報告書

グリーンヒル指定訪問介護

1. サービスの重点目標の達成度

- 1) 訪問介護サービスマニュアル「ハート・トゥ・ハート」に沿ったサービスの実施
- 2) ヘルパーとしての介護技術向上を目的とした研修の実施。
- 3) 安全な移送サービス、通院等乗降介助の実施。
- 4) BCP策定済みであるが、研修等実施出来ず。

2. サービス実績目標の達成度

目標人数 平均 65 人/月

実績人数 【訪問4月～10月】

平均 44.9 人/月

うち要介護人数 平均 34.9 人/月

要支援人数 平均 10.0 人/月

通院乗降介助のみ 11.1 人/月

【サテライト11月～3月】

平均 37.8 人/月

うち要介護人数 平均 27.6 人/月

要支援人数 平均 10.2 人/月

通院乗降介助のみ 9.4 人/月

—総括—

- 1) それぞれのヘルパーとしての技術力は認知症への対応力も含め非常に向上しており、他の事業所のケアマネや地域包括支援センターからも高い評価を得られている。
- 2) 令和6年1月に提供責任者1人が退職となった上、職員のコロナ感染も重なり、急遽グリーンヒル八千代台小規模多機能の職員1名を本体に派遣し、新規ケースの受け入れを中止しながら、事業所の継続を行い職員確保に努めてが、結果的には職員確保もできない状況の為に、介護保険制度の2000年に立ちあげた本体の訪問介護を10月末にて廃止し八千代台訪問のサテライトとして、11月より事業継続を実施し維持をしている。
- 3) 今後の課題としては、本体とサテライトとの組織の構築が重要であり、6月以降の八千代台訪問の南デイへの移設によって連携体制や八千代市の総合事業の方向性を見据えての訪問サービスの自費事業への展開及び障害者部門への手上げを行うか等、今後の方針がための年度として、現状の人材への教育・育成に重視したいと考えます。

2024年度 施設内外研修予定表

月	事業所会議	全体会議 及び(★)リーサブ会議	法定研修	教育研修委員会			防災訓練・救命講習	その他 施設外研修等
				人材育成研修	法人全体研修	・認知症・介護過程		
4月	第一金曜日・リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★4/5(火)生産性向上推進委員会 ・2023年度 自グループケアの 振り返り(ケアの評価・改善)	※お茶の水のケアサービス 学院 フローアツ研修にて実施 ・感染症予防及びまん延防止	※I DOオンラインセミナー 人 材育成メソッド シラバス参照 お茶の水のケアサービス学院 フ ローアツ研修を使用して、随時参加	1日(月)・2日(火) 『新入・中途職者研修』 ・高齢者虐待・身体拘束について ・感染症について	※排泄関係 ※入浴関係 等随時	1日(月)新入・中途入職者 ・防災訓練、演習 ・BCP確認	※認知症介護基礎研修 (無資格者) (eラーニングにて)
	第三金曜日・感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進				・身体拘束の廃止 ・食中毒予防及びまん延防止	31日(金) ・認知症とは？(基本) 日高 和枝	※認知症ケアに関する事例検 討等については、各ユニット会 議・各事業所において実施す る。 ※認知症介護基礎研修 (無資格者)	
5月	5/3 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会	★5/3(水)生産性向上委員会 ・2024年各フロアへのケアの 理念の構築	・感染症予防及びまん延防止					
	5/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
6月	6/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★6/7(月)生産性向上委員会	・プライバシーの保護の 取り組み ・接遇マナー研修	※口腔ケアの研修 歯科衛生士による実施指導				※身体拘束廃止基礎研修
	6/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
7月	7/5 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★7/5(月)生産性向上委員会 ※全体会議	・認知症ケア ・グループケア	※自法人における、介護実務者研修 教室の開校				※ユマニテッド研修 ※アセッサー研修
	7/19 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
8月	8/2 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★8/2(木)生産性向上委員会	・個人情報保護 ・虐待防止に関する研修 (身体拘束排除)	措置対策に関する継続的教育				※身体拘束廃止専門研修
	8/16 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
9月	9/6 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★9/6(月)生産性向上委員会 ※全体会議	・認知症の予防 ・身体拘束の廃止					※身体拘束廃止基礎研修
	9/20 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
10月	10/4 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★10/4(火)生産性向上委 員会 (ハラメント防止に係る件 数及び労災等の件数報告)	・事故の発生予防・再発防止 ・リスクマネジメント ・感染症予防及びまん延防止	『喀痰吸引等実地』に関する継続的研修				※身体拘束廃止基礎研修
	10/19 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
11月	11/1 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★11/1(金)生産性向上委員会 ※全体会議	・認知症ケア ・緊急時対応					※身体拘束廃止管理者研修
	11/19 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
12月	12/8 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★12/8(月)生産性向上委員会	・看取り期に関する研修 ・虐待防止に関する研修	※口腔ケアの研修 歯科衛生士による実施指導				※身体拘束廃止専門研修
	12/20 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
1月	1/10 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★1/10(月)生産性向上委員会 ※全体会議	・非常災害時対応 ・虐待防止に関する研修					※身体拘束廃止指導者研修
	1/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							
2月	2/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★2/7(土)生産性向上委員会	・指導側接遇マナー研修 ・虐待防止に関する研修	『喀痰吸引等実地』に関する継続 的研修				『認知症にかかわる専門職の多職種 協働研修』
	2/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等							
3月	3/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★3/7(土)生産性向上委員会 ※全体会議	・倫理及び法令遵守 ・介護予防研修					防災・安全管理研修 「救命講習」
	3/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(措置対策等) ハラメント防止等/生産性向上推進							

※リスクマネジメント・・・事故防止検討委員会

【令和6年度 事業報告】

特別養護老人ホーム（短期入所生活介護） グリーンヒル八千代台
短期入所生活介護 グリーンヒル八千代台

1. 目標稼働・目標施策（令和6年度）の達成状況（○数字はR6事業計画の原文）

- ①稼働率（長期＋短期）：長期入所者の安定稼働（入院者低減・空床期間短縮）
・年間稼働率 99.75%目標（長期+短期：39床に対し 38.89名以上の稼働）
⇒【未達】月平均 38.85名（年間稼働率 99.65%） ※令和5年度稼働：99.63%
- ②現算定加算の算定継続
⇒【達成】日常生活継続支援加算2（46単位）看護体制加算Ⅰ（12単位）
（1日当たり）看護体制加算Ⅱ（23単位）夜勤職員配置加算Ⅳ（61単位）
個別機能訓練加算Ⅰ（12単位）認知症専門ケア加算Ⅱ（4単位）
栄養マネジメント強化加算（11単位）
（1月当たり）個別機能訓練加算Ⅱ（20単位）個別機能訓練加算Ⅲ（20単位）
経口維持加算Ⅰ（400単位）口腔衛生管理加算Ⅱ（110単位）
褥瘡マネジメント加算Ⅱ（13単位）排せつ支援加算Ⅰ（10単位）
科学的介護推進体制加算Ⅰ（40単位/月）
（看取り時）看取り介護加算Ⅱ1（72単位/15日）
看取り介護加算Ⅱ2（144単位/27日）
看取り介護加算Ⅱ3（780単位/2日）
看取り介護加算Ⅱ4（1580単位/1日）
- ③新設算定加算の算定
⇒【達成】ADL等維持加算Ⅱ（60単位/月）個別機能訓練加算Ⅲ（20単位/月）
感染対策向上加算Ⅰ（10単位/月）・Ⅱ（5単位/月）
生産性向上推進体制加算Ⅱ（10単位/月）精神科医療療養指導
高齢者等感染対策向上加算Ⅰ（10単位/月）・Ⅱ（5単位/月）
- ④短期入所生活介護の加算算定継続
⇒【達成】看護体制・認知症専門ケア・夜勤職員配置・機能訓練体制加算等
生産性向上推進体制加算Ⅱ（10単位/月）の追加算定
- ⑤協力医療機関に関する加算算定
⇒【達成】協力医療機関連携加算Ⅰ（100単位/月）
- ⑥ICT導入による生産性の向上と取り組み加算の算定
⇒【達成】生産性向上推進体制加算Ⅱ（10単位/月）
見守りカメラ+シルエットセンサーを活用した事故再発防止策の
提示が可能となる（事故映像をもとにした環境整備等）
- ⑦生産性向上委員会等の立ち上げによる生産性向上への取り組み実施
⇒【達成】「生産性向上委員会」の立ち上げ「5S委員会」の立ち上げ
サービスの質を確保しつつ既存のムダを削減し、業務の効率化
職員の業務負担軽減に向け各部署とでの協力体制を敷く。
Hugや走行式リフトの導入、積極的活用により職員の腰痛等
負担軽減が明確に表れている。

2. 今年度の実績（反省）

①感染症拡大防止への取り組み

- ・年間を通し、職員各自が健康管理に留意することでクラスター等を回避。
今後感染症防止に引き続き努めることを前提に、コロナウイルス流行前の生活スタイル、職員のアプローチ方法へ戻すことを次年度の目標として掲げる。

②稼働率（長期＋短期）の維持

- ・利用者の健康管理（検温・誤嚥性肺炎や尿路感染症予防等）また ADL の維持に対し、各専門職が協働することで前年度と比較しての入院者は減少。今後も稼働率向上を目指し、過去の傾向から入院者の出現時期を予め予測し、突発的な入院に柔軟に対応できるよう日頃より利用相談（希望）を丁寧に収集し、待機者への声かけを迅速に行うことについて意識を高める必要がある。

③地域活動・地域貢献・地域連携

- ・ふらっとホームの継続、地域活動サークルまた近隣教育機関への専門職派遣等、住民との交流機会を維持し、活動の場が更に増加傾向にある状況。
地域住民との合同防災訓練・BCP 訓練も併せて実施し、業務継続に必要とされる事項、福祉避難所として求められる役割について共有を図ることができた。

3. 令和6年度 特養・短期の実績

令和6年度 グリーンヒル八千代台 特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
月末利用登録者	29	28	29	29	29	28	26	26	26	26	27	27	330	27.5
入所延日数	870	869	851	899	899	857	832	780	816	806	754	837	10,070	839.2
入院延日数	32	31	37	49	31	18	0	0	24	1	0	19	242	20.2
利用実日数	838	838	814	850	868	839	832	780	792	805	754	818	9,828	819.0
1日平均利用者数	27.9	27.0	27.1	27.4	28.0	28.0	26.8	26.0	25.5	26.0	26.9	26.4		26.9
平均介護度	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3		4.4
(介護度4・5割合)70%	93.1%	92.9%	92.9%	92.9%	92.9%	92.9%	92.3%	88.5%	88.5%	88.5%	82.8%	82.8%		90.1%
新規入所者数	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0.4
(内介護度4以上)	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0.4
(内認知度Ⅲ以上)	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0.0
退所者数	0	2	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	7	0.6
負担限度額認定者	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	55	4.6
短期請求件数	26	26	24	25	27	27	26	28	30	34	28	29	330	27.5
短期入所延日数	334	354	337	360	346	332	379	391	388	404	339	391	4,355	362.9
特養・短期合計延日数	1,172	1,192	1,151	1,210	1,214	1,171	1,211	1,171	1,180	1,209	1,093	1,209	14,183	1,181.9
特養・短期1日平均数	39.1	38.5	38.4	39.0	39.2	39.0	39.1	39.0	38.1	39.0	39.0	39.0		38.9
稼働率	100.2%	98.6%	98.4%	100.1%	100.4%	100.1%	100.2%	100.1%	97.6%	100.0%	100.1%	100.0%		99.6%
前年度稼働率	98.9%	99.3%	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.2%	99.5%	96.9%	100.7%		99.6%
前年度との比較	1.3%	-0.7%	-1.6%	0.1%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	-2.6%	0.5%	3.2%	-0.7%		0.0%
介護福祉士取得(非常勤含む)	18名	19名	19名	19名	19名	19名	19名	19名	19名	18名	18名	18名		

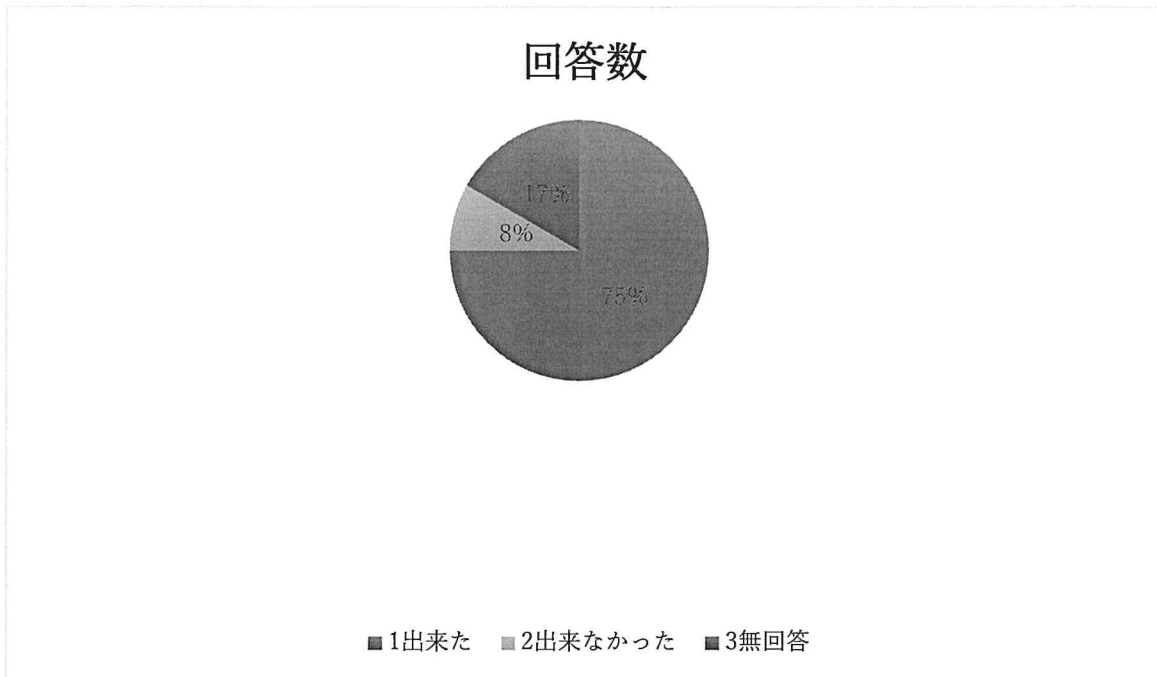
以上

令和6年度 2階 ばら・つつじユニット 理念振り返り

【 明るい生活 】

I. 介護理念

「 綺麗 」



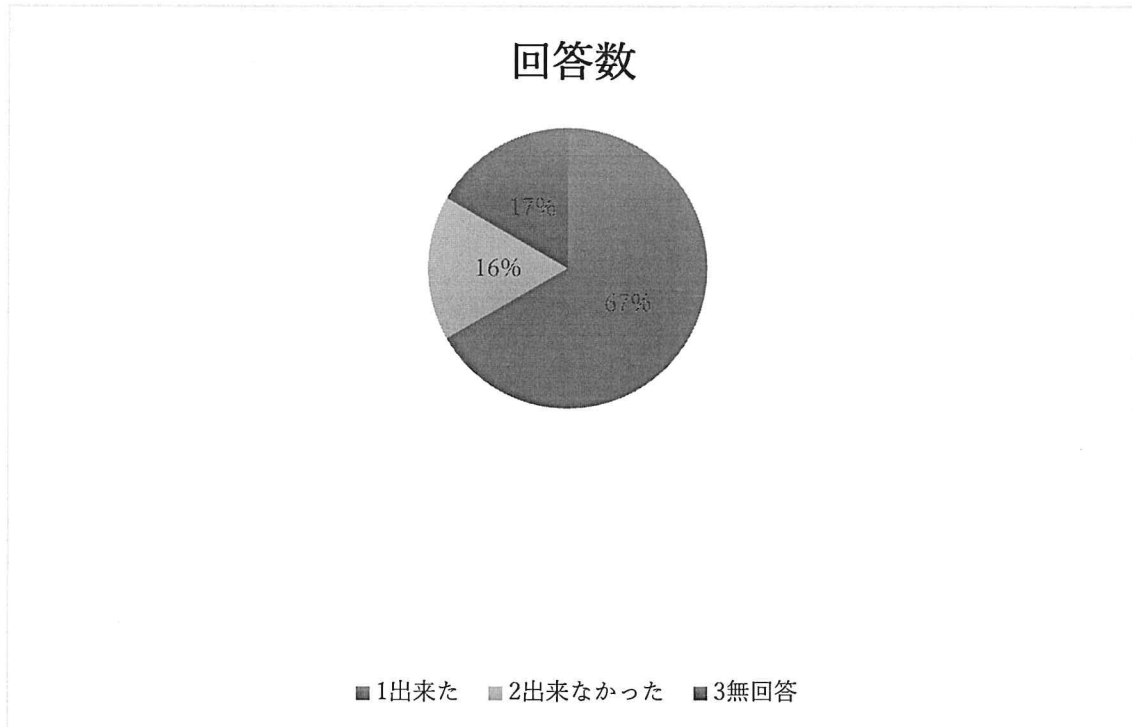
※無回答は特定技能職員によるもの。

実績・反省

- ・次年度は今以上に（介護）スキルに磨きをかけ、心に余裕を持った業務を行うことで、よりよい対応を図ろうと考えます。
- ・床の汚れに気づき、随時清掃を行うことに心がけました。次年度は自身だけでなく、ユニット職員が共通意識をもって行動できるよう働きかけます。
- ・ご利用者の身だしなみについて、居室から出る前の段階で綺麗を保つよう努めました。
- ・衣類の汚れがある場合には随時着替えを実施。共同生活を行う上での配慮に努めました。
- ・配慮において個人差が生まれる場合があります、意識レベルの底上げが必要と考えます。
- ・居室内に不必要な物品が置かれていることがあった為、次年度へと反省を繋げます。

II, ケアの重点目標に関して

1. 「清潔であれ」

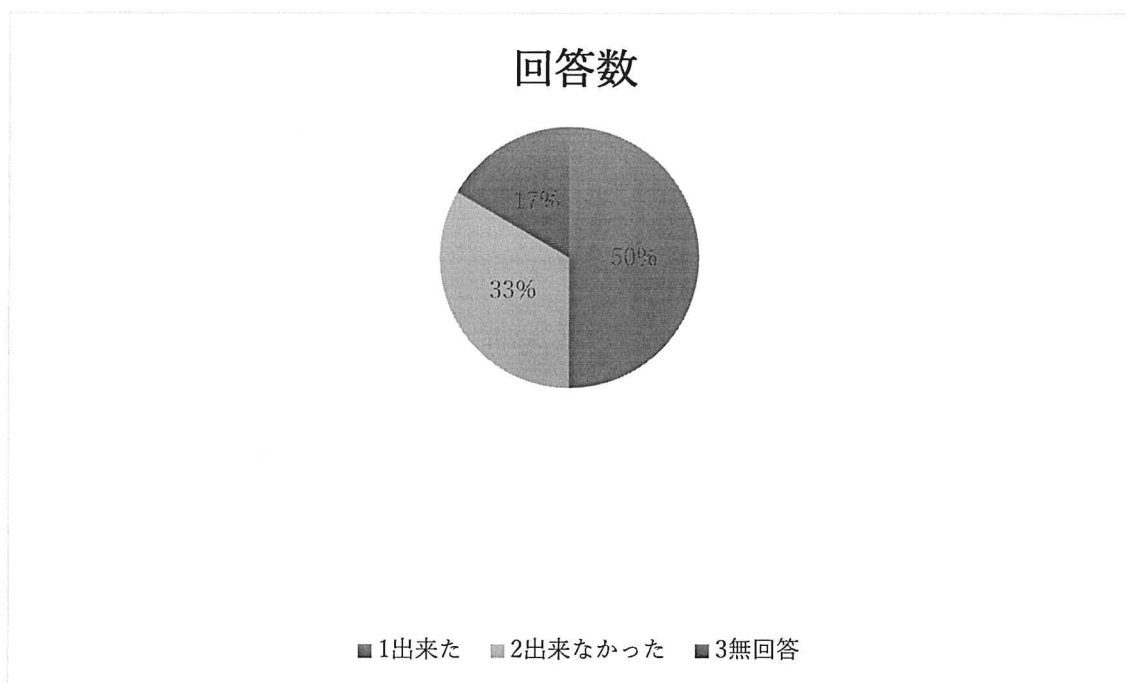


※無回答は特定技能職員によるもの。

実績・反省

- ・テーブル、床、台所周り等リビングの清潔に対し意識し、目標を達成しました。
- ・ご利用者に限らず、職員においても身だしなみ等の清潔を維持しました。
- ・日中と夜間において、カーテンの開け閉めにメリハリを持たせることで明るい生活環境を保持しました。次年度においてもこの成果を維持することが必要と考えます。
- ・ご家族の面会機会が増えたことに応じ、各職員がご利用者の身だしなみまた自身の身だしなみ、言葉遣いを意識して業務を行っていたと客観的に感じ取ることができました。
- ・面会時間や面会方法の更なる緩和が予想されることで、今年度以上の意識が必要であると考えます。
- ・居室担当として、受け持つご利用者の居室内整理（清潔保持・適切な衣替え）に欠けることがありました。反省として次年度の継続目標として掲げ、達成に向けて努めます。

2. 「きめの細かい仕事」

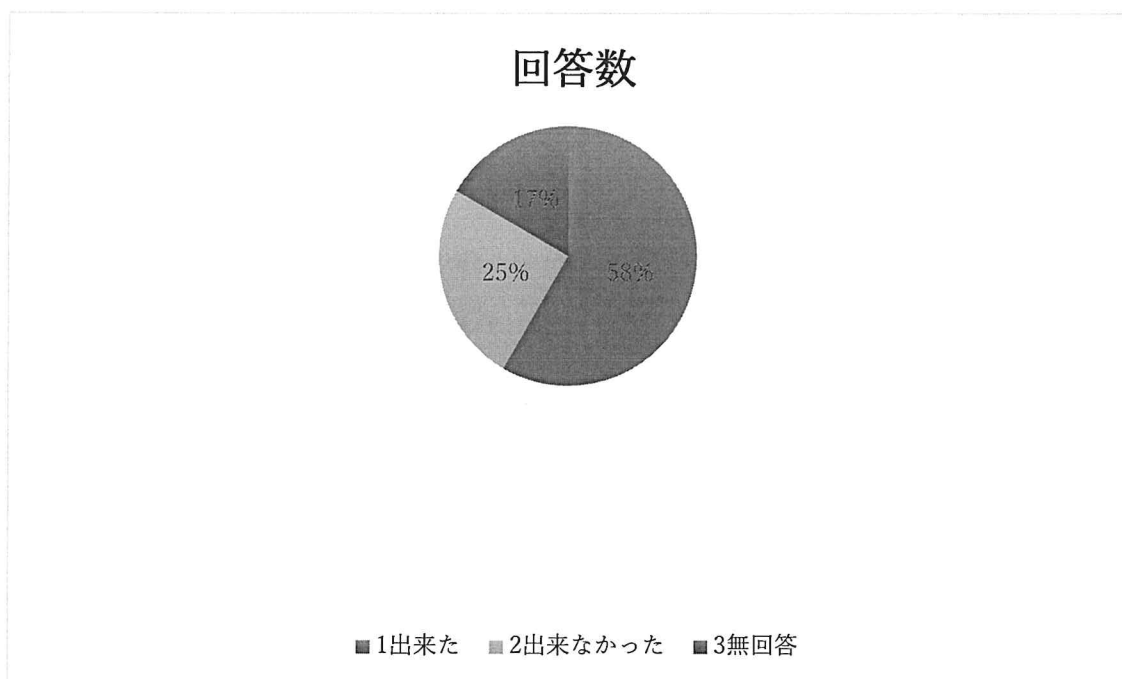


※無回答は特定技能職員によるもの。

実績・反省

- ・ご利用者個人の生活環境（スタイル）に合わせた居室の設えを実践しました。
- ・ご利用者の特徴に合わせた介助方法で介助を行うことを意識しました。
- ・Hug（移乗介助機器）や走行式リフト（移動・移乗介助機器）の使用に慣れることで、自身の腰痛等負担の軽減に繋げることができました。
- ・ご利用者の生活歴等の重要性を顧み、ご家族面会時等、情報の収集に努めました。
- ・業務内容をこなすことに集中し、ご利用者と接する時間を割いてしまったことが反省として挙げられます。自身のスキルアップを目指し、次年度の課題として取り組みます。
- ・自身の介助スピードを把握し、業務の優先順位と照らし合わせながら効率的に業務が行えるよう、他職員の動きを参考にしながらスキルアップを目指します。
- ・ご利用者に対し選択肢を設けることに欠けました。自身に余裕と広い視野が持てるよう、今一度ご利用者の生活サイクルに目を向けようと振り返りました。
- ・リーダーとして、ユニット職員のレベルアップに繋がる指導を次年度は意識して実行しようと考えます。コミュニケーションに不足する部分があったため、次年度の課題として取り挙げます。

3. 「外出・面会の充実」



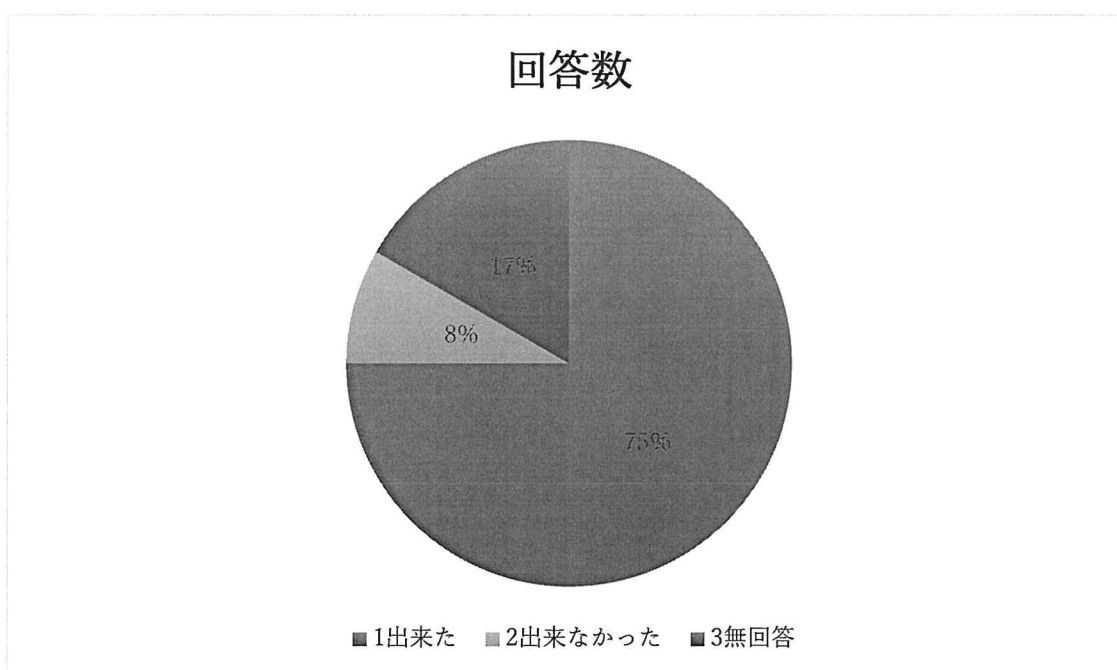
※無回答は特定技能職員によるもの。

実績・反省

- ・感染症流行前のように、ご家族と積極的な交流が図れる様になり、個別的な外出を実施することができました。
- ・特別な企画（誕生日等）に限らず、季節に応じた外出企画を実施することができました。
- ・日頃の会話の中からご利用者の意向を汲み取り、外食等の企画を提案することができました。
- ・意思決定が難しいご利用者に対し、選択肢を設けて行先を選定する方法を身に付けることができました。
- ・現在は事前にご家族の面会時間等を把握できていますが、次年度の面会方法変更を意識し、常日頃の環境整備を意識する必要があると考えます。いつでもご家族を迎え入れることができるよう、居室やリビングの管理に努めたいと考えます。
- ・企画立案に四苦八苦したことが反省点として挙げられます。ご利用者の意向を汲み上げることに欠けたことが課題として残ります。

Ⅲ. チーム目標

- ・ご利用者が安心して生活できるよう、ユマニチュードの「見る」「話す」「触れる」を大切に、「綺麗な声掛け」「綺麗な介助」を実践します。
- ・多職種（看護師・管理栄養士・理学療法士・ケアマネ等）と、ご利用者1人1人のケアを検討し、日々の生活が向上できるように努めます。
- ・介護ロボット（見守りカメラ・シルエットセンサー・ロボット等）を活用し、業務の改善、サービスの質を維持・向上させつつ職場環境をより働きやすくできるよう努めます。



※無回答は特定技能職員によるもの。

実績・反省

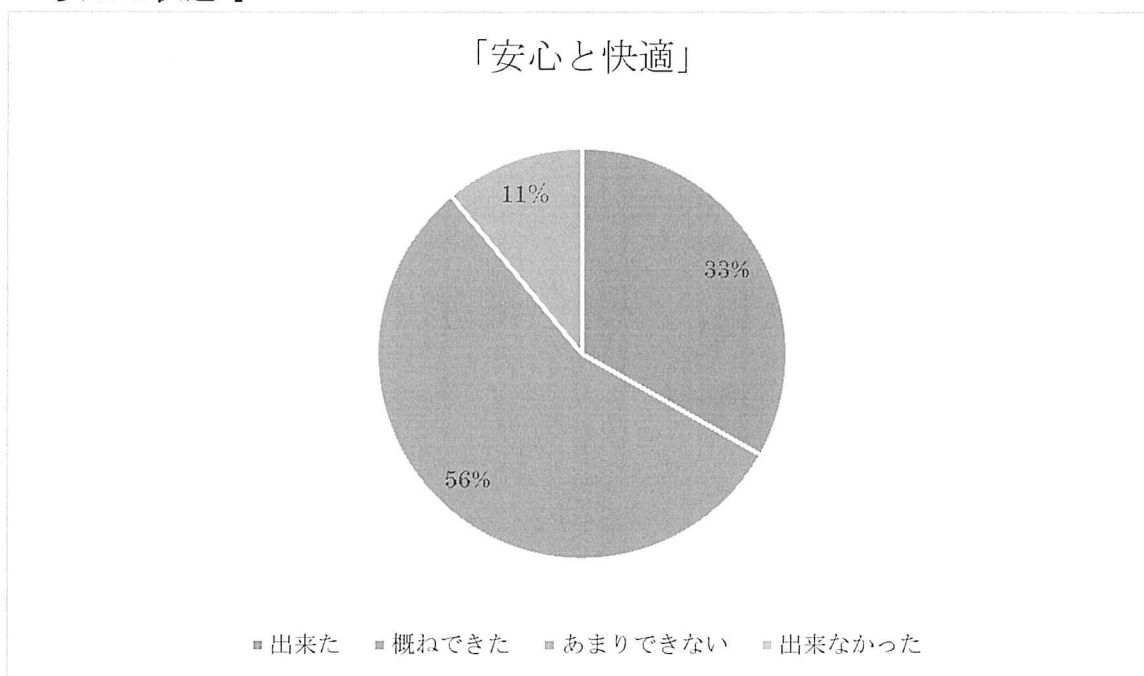
- ・ご利用者に対する言葉遣いに配慮し、同じ目線で接することを意識することができた。
- ・介助前の声かけ等、ご利用者の安心に繋がる介助を心がけて実践することができた。
- ・介護ロボットの導入を活かすべく、各研修で学んだ生産性向上のノウハウをマニュアルまた個別指導を通じて共有することができた（動画マニュアル）。
- ・特に移乗機器は各職員の負担軽減に繋げることができていると実感している。
- ・離床センサーの設置により呼び出しの重複が生じる中で、対応する優先順位を明確にすることが重要であると実感した。ご利用者の特徴やサイクルについては適宜アセスメントを実施し、適切な対応が図れるよう、次年度は更に職種間での協議が必要と考える（専門職同士でのリスク等擦り合わせ）。

令和6年度 3階 梨の花・新川ユニット 理念振り返り

【 心地よい 】

I. 介護理念

「安心と快適」



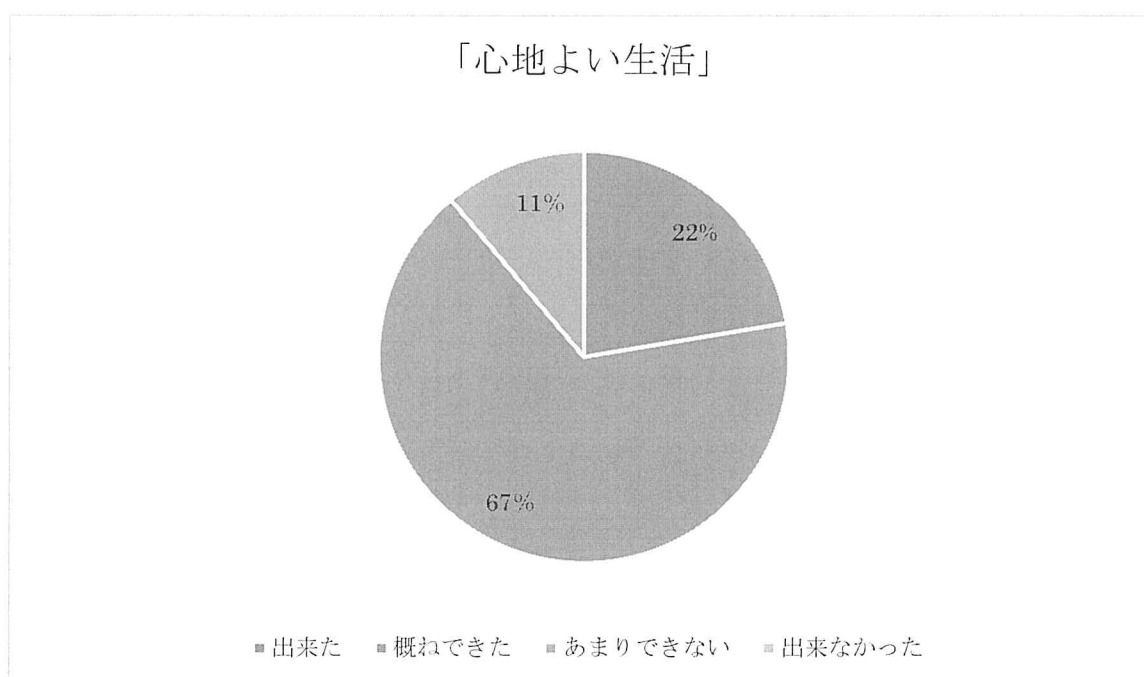
実績・反省

- ・ご利用者に対して、一つ一つ丁寧に移乗等介助を行うことができました。
- ・ご利用者の方が安心できるような声掛け（声のトーン）を心掛けました。
- ・ご利用者の方が快適に過ごせるように日頃の清掃や整理整頓に取り組みました。
- ・言葉遣いや身だしなみ等、丁寧な接遇を意識することができました。
- ・ご利用者の方の生活サイクルを維持できるよう、介助方法の統一に努めました。
- ・外出以外にも施設外へ出て外気に触れていただけるよう努めました。
- ・居室担当ご利用者以外の居室への配慮（整理整頓等）に欠ける部分がありました。

II. ケアの重点目標

1、【 心地よい生活 】

- ・ご家族やご利用者に聞き取りを行った上でご利用者の趣味や生活歴を把握し、24時間シートや介護計画書に反映します。会議等でも話し合い、情報を共有します。
- ・外出・外食企画、おやつ作り、クラブ活動を通じてご利用者が楽しめる企画を立案・実施します。
- ・生活向上委員会を中心にご利用者に合った排泄介助を行います。
眠りスキャンを活用し、安眠を妨げないように排泄時間を調整します。

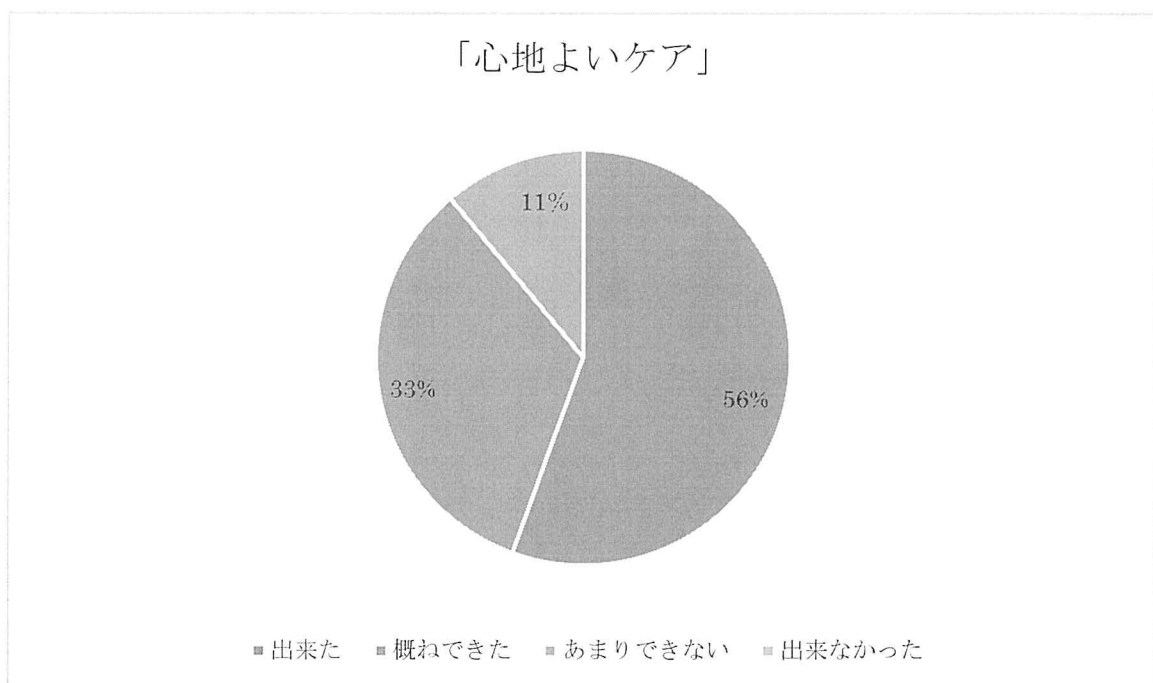


実績・反省

- ・ユニット会議等では、ご利用者の状態変化に限らず意向の変化等を共有し、24時間シートや介護計画書に変更点を反映させることができました。
- ・会議中の雰囲気良好で、互いに意見しやすい環境が整っていました。
- ・企画内容について、ご利用者やご家族に希望や意向を確認し、要望にそった企画の実施ができました。
- ・眠りスキャン（睡眠状況・心拍等数値抽出が可能）の使用により、ご利用者の覚醒状況に合わせた排泄介助時間を設定することができました。
- ・外出やクラブ活動への参加について、実施や参加回数に伸び悩む時期もあったため、次年度は年度目標を自覚し、達成への取り組みを図りたいと考えます。

2、【 心地よいケア 】

- ・「見る」→目を合わせてから話かけます。
- ・「触れる」→ゆっくり触れることで、安心を感じてもらいます。
- ・「話す」→穏やかにゆっくりと、抑揚をつけ、前向きな言葉を使用します。
- ・入室前はノックしてから入室し、「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と挨拶してからケアを行い、退室する際、「また会いに来ますね」と再会の声掛けをして安心を感じて頂きます。

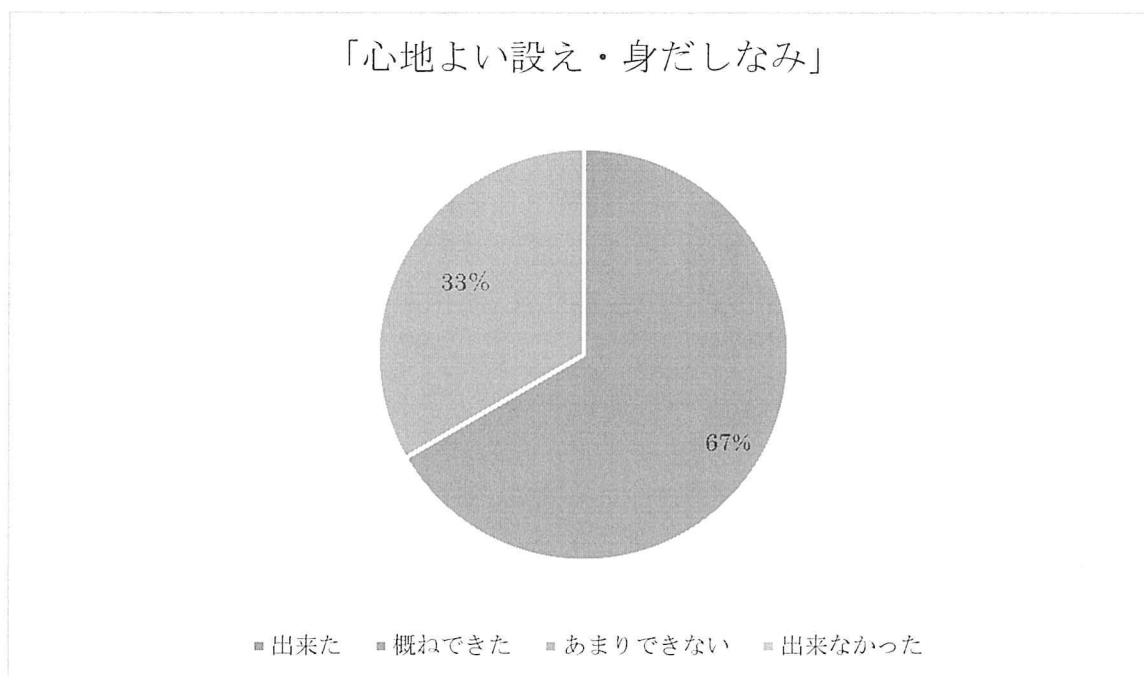


実績・反省

- ・ご利用者の顔（目）を見て肩などに触れながらコミュニケーションを図ることができました。会話の際にはご利用者が聞き取りやすい声のトーンとスピードを意識することができました。
- ・身体介助の前には必ず声をかけ、ご利用者の心構えに合わせて介助を開始するよう意識することができました。
- ・入室時と退室時の声掛けを欠かさず、それに対する相手の返事を待つことができました。
- ・居室へ入室後に声を掛けることはできたが、意識を欠いた際にノックを忘れてしまうこともあり、次年度の継続課題として掲げる必要があると考えます。
- ・日常業務を優先し、触れ合いの機会が確保できないこともありました。機会の確保もスキルアップの一環として考える必要があると振り返ります。

3、【心地よい設え・身だしなみ】

- ・安心して暮らせる居室をご家族・ご利用者と話し合い、設えていきます。
- ・居室（洗面所・テーブル・タンス・ベットメイク・）やリビングの整理・整頓・掃除を行い、気持ちよく生活できる環境を整えます。
- ・身だしなみ（洋服、髪の毛、目元、手の汚れ、爪）を整えます。

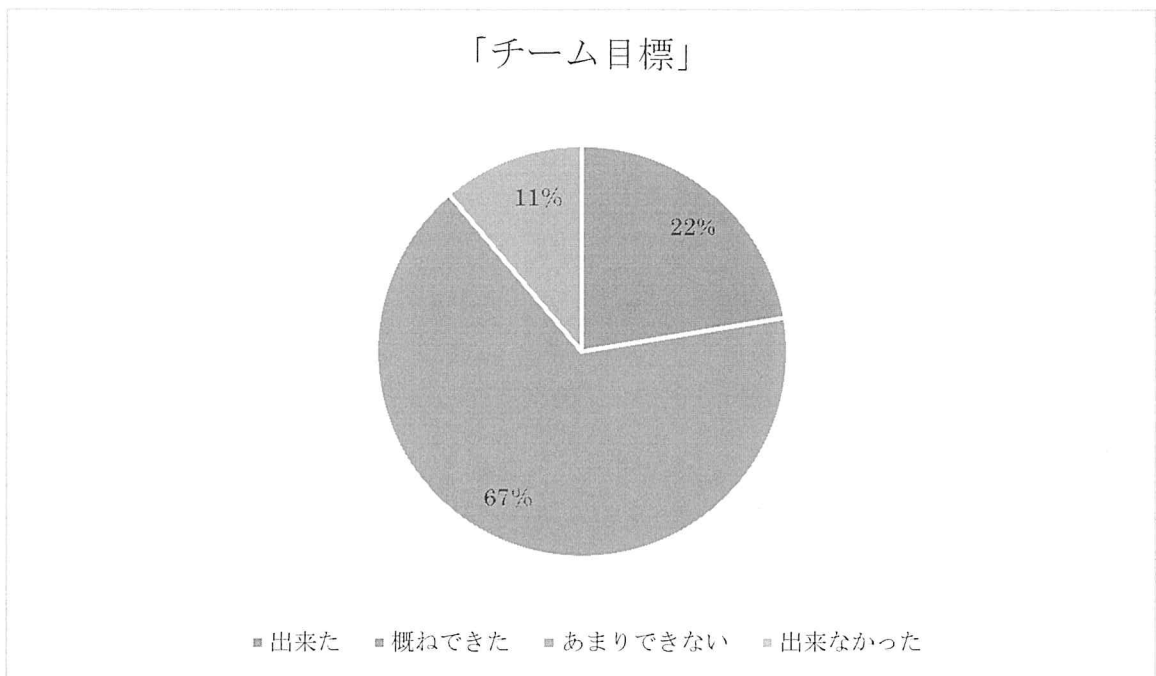


実績・反省

- ・居室のベッドメイクや換気、不在時の電気の消灯、リビングの花の手入れ等に配慮することができました。
- ・担当ご利用者の居室について、出勤の都度タンス内の整理や清掃を行うことを心がけ、実施することができました。
- ・退室前の整髪や目元の拭き取りを意識し、身だしなみを整えた状態でリビング等へ誘導することができました。
- ・食後の床清掃について課題が残る形となりました（時間が経過した状態での清掃となってしまった）。
- ・細かい部分の清掃に欠けてしまうことがありました（ベッドの下や間接照明等）。
- ・ご家族の面会頻度も多い中、衣類の汚れを指摘されることもありました。食後等のポイントで、早期の着替え（食べこぼし等への配慮）が重要であると、ユニット職員全体で意識することが必要と考えます。

Ⅲ. チーム目標

- ・毎日ロボットとコミュニケーションをとることで、ご利用者に癒しを与えます。シルエットセンサー、カメラセンサーを活用し、必要時に居室に訪室します。
- ・ご利用者、ご家族、職員同士、丁寧な言葉遣いで接し、円滑なコミュニケーションを図ります。
- ・職員同士、何でも話せる関係性を作ります。



実績・反省

- ・ラボット（コミュニケーションロボット）を用いることで、ご利用者にとっての日課を増やすことができました（時間を決めてコミュニケーションを図る）。
※3階ご利用者の中では想像以上に好反応を示している状況にあります。
- ・見守りカメラ等の反応をスマホで映像確認できるようになり、不必要な訪室が減少し、業務負担の軽減に繋げることができています。また、ご利用者の特徴や動きのスピードを評価することができ、訪室優先順位の選定に役立てることができています。
- ・年間を通し、職員間で様々な意見（良悪）を言い合える関係性が構築されたと実感しています。
- ・仕事とプライベート事情の混在が見受けられる部分もありました。業務時間内の（会話内容）分別について次年度以降も意識する必要があると考えます。

令和6年度

グリーンヒル八千代台医務課 事業報告

グリーンヒル八千代台 医務課

【年間経過について】

今年度は新規入所者が5名、退所者7名。退所者の内訳として、看取りで永眠された方が3名、病院で永眠された方が2名、その他の理由で退所された方が2名、入院者数はのべ7名でした。

看取り期に移行する際には看取りケアの充実させるため、ご本人・ご家族ができるだけご満足頂けるよう他職種と協働、その時を見極め、事前にご家族と話し合う機会を設けることで計画に沿ったケアを行うことができました。

【皮膚トラブル等事例について】

R6.2に発生した動脈性血行不良による水疱形成からの難治性潰瘍形成多発したケースについて、発症直後患部の炎症症状が強く入院。ENT後は整形外科・皮膚科・循環器内科とフォロー先を変更し、通院しながら処置を継続していました。虚血性潰瘍(下肢閉鎖性動脈硬化症)の診断を受けたことからR7.1.21血管内手術(EVT)を実施。入院2日間でENTされ処置対応を再開。別件ではR7.3.12に下血し、貧血改善のための輸血目的で入院。3週間後ENTされ処置が更に再開となっています。R7.4.22現在の潰瘍部分は2cm以下の大きさへと縮小し改善傾向。また、左足の他部分の皮膚トラブルが繰り返しあり現在も対応を継続しています。

【感染症予防(防止)への取り組み】

感染症に関して施設内ご利用者でのCOVID-19やインフルエンザなどの感染は無く、面会は健康観察の上で居室内での15分間を目安に継続実施中、今後も感染対策を重要事項として継続していきます。看護理念として掲げている様に「ご利用者とその人らしく生活」できる為に ご家族とのコミュニケーションを取り、情報の提供と収集・意思決定をお願いし、その状況に応じた計画・具体策を委員会へ反映させ、他職種との協働・安全安心な看護・介護の提供にて「その人らしい生活の質の向上」を実践するために介護職員との協働を行いました。

【看護事故等防止への取り組み】

リスクマネジメント委員会での内容を持ち帰り話し合うことで問題意識が向上し 介護上の問題点を医療の観点からアドバイスすることが出来たことで改善に繋げることができました。今後もミス事故撲滅に努めることを目標とします。R6.9からR7.1にかけて南デイサービスでの看護活動を実践。日常的にスタッフ間で情報共有し、定期的なりハビリ会議にて問題点を抽出、解決などの活動をしたが、人員不足となり派遣が中止となり、現在は遠隔相談対応を図っています。

【ドクターメイト（精神科相談）の開始】

R6.9 よりドクターメイト(精神科相談)を活用することとなり、精神科医師のアドバイスからご利用者への関わりや介護に対する問題について多職種で思考し、然るべき場所への相談 問題解決に繋がる事が出来たケースがありました。現在グリーンヒル八千代台では相談ケースが少なく、今後どう活かしていけるのかが課題となっています。

資 料

第1表 入院者数の推移（前年度比）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R5年度		2	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	8	321	0	
R6年度	入院	1	1	1	1	0	1	0	0	1	2	0	1	9	242	2	
	長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

第2表 令和6年度入院者・退所者（内訳）一覧

【グリーンヒル八千代台 入院者一覧】

	入居者氏名	入院日	退院・(死亡)日	病 院	入院診断名	備 考
1	A(1回目)	R6.4.28	R6.5.9	津田沼中央HP	尿路感染疑い	退院
2	A(2回目)	R6.5.19	R6.7.22	最成HP	誤嚥性肺炎	退院
3	B	R6.6.6	R6.6.18	セントHP	虫垂炎疑い	退院
4	C	R6.7.3	R6.9.17	セントHP	電解質異常	死亡退所
5	D	R6.9.2	R6.9.4	勝田台HP	右大腿部頸部骨折	退院
6	E	R6.12.3	R6.12.27	勝田台HP	胃腸炎・胸水・腹水	死亡退所
7	F(1回目)	R7.1.21	R7.1.23	済生会習志野HP	下肢静脈カテーテル治療	退院
8	G	R7.1.28	R7.1.29	八千代医療センター	白内障手術	退院
9	F(2回目)	R7.3.12	R7.4.1	済生会習志野HP	消化管出血	退院

【グリーンヒル八千代台退所者一覧】

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他: 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31
H30年度	1	0	1	1	2	5	H30.4.1	～	H31.3.31
R1年度	2	2	0	0	0	4	H31.4.1	～	R2.3.31
R2年度	2	1	1	0	0	4	R2.4.1	～	R3.3.31
R3年度	3	1	1	0	0	5	R3.4.1	～	R4.3.31
R4年度	6	1	1	0	0	8	R4.4.1	～	R5.3.31
R5年度	5	1	2	0	0	8	R5.4.1	～	R6.3.31
R6年度	3	2	0	0	2	7	R6.4.1	～	R7.3.31

令和6年度事業報告

グリーンヒル八千代台居宅介護支援

1. 目標稼働

- ・ 計画作成者数・・・ 要介護請求件数 月平均 99.8 件
要支援請求件数 月平均 9.3 件
- ・ その他加算あり

2. 令和6年度総括

- ・ 目標件数 95 件に対し平均値は 99.8 件(105%)となりました。
- ・ 他法人との事例検討会につきまして令和6年度は、セントマーガレット病院居宅、(グリーンヒル上高野居宅)と合同開催し、その後の支援に活かしました。
- ・ 毎週1回居宅内での会議を行っており、事例の検討と共に各々のスキルアップを図っています。
- ・ 居宅職員の入退職があり人材確保が難航しました。
- ・ 本年度も他部署と連携し、インターフォンの来客対応・行事の際の設営手伝い等を行いました。

- ・ 令和7年度は6月1日付けグリーンヒル指定居宅とグリーンヒル八千代台の居宅が合併し、特定事業所加算3から一段階アップの特定事業所加算2を算定する事となります。合併直後は、他部署にも協力を仰ぐ事が発生すると思われま
す。どうぞよろしく願いいたします。

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【令和6年度 事業報告】

1. 目標 月28名以上の稼働 年間稼働率98%目標 平均介護度2.7

平均介護度2.9(令和5年度)→平均介護度2.7(令和6年度)

年間平均登録者29名(年間平均稼働率100%)

- ① 毎日通い…2名/29(6%) 毎日泊まり…2名/29(6%)
毎日通い・泊りの利用者が登録者全体の12%
- ② 要介護1…6名/29(21%) 登録者全体の要介護1の割合

毎日通い・泊りの利用者が登録者の30%以上としないようにしていくとともに、具体的な想定数値「通い・泊まり・訪問及び人員配置・平均介護度」等を示していくことでサービス配分を標準化していく必要がある。

人材不足は法人内全体的におこっている状態だが、各事業所間での調整等点と点を結び付けた統括的体制が取る仕組みづくりが必要で、法人全体で人材確保に取り組む意識を持ち、法人本部中心とした体制を築くことが急務となっている。

2. 内容

業務の見直しや改善にも取り組みを進めている。ICT機器を使った事務作業や業務連絡をスムーズに行えるようになり、ご利用者の皆様と過ごすケア時間を増やす事が近々の課題であるとともに、新規職員や、まだイベントに不慣れな職員もあり、指示を出す側の職員との連携不足があり課題が残った。

新規のボランティアの方々の参入も増え、メリハリのある余暇時間の提供が出来ていること、また地域の子どもの福祉教育や世代間交流も地域の方々の協力体制のもと、ご利用者の皆様に楽しんでいただくことができました。

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台
【令和6年度 事業報告】

1. 目標 稼働率月 17 名以上の稼働 年間稼働率 95%目標 平均介護度 1.6

平均介護度 1.8(令和5年度)→平均介護度 1.8(令和6年度)

年間平均登録者 18 名 (年間平均稼働率 100%)

- ① 毎日通い…0 名 毎日泊まり…0 名
毎日通い・泊りの利用者が登録者の 0%
- ② 要支援 1・要支援 2・要介護 1 の利用者が 39%
登録者全体の要介護 1 以下の割合

要支援 1・要支援 2・要介護 1 の利用者が 30%未満となるように取り組んでいく必要がある。

人材不足は法人内全体的におこっている状態だが、各事業所間での調整等点と点を結び付けた統括的体制が取る仕組みづくりが必要で、法人全体で人材確保に取り組む意識を持ち、法人本部中心とした体制を築くことが急務となっている。

2. 内容

ご利用者やご家族との日々の関わりの中で得た情報は、LINE WORKS での発信や申し送り、サテライト会議の場にて職員間で情報共有し、ご利用者の状態に合わせたケア、臨機応変な対応、生活や希望の把握をチームで意識して行うことができた。勝田台ステーションギャラリー作品展は開催できなかったが、清掃美化活動、無事ですタオル運動、サンコーポ便りの発行、防災訓練などサンコーポ住民の方と協働した取り組みを行った。また、地域のイベントや活動に参加し地域の方々との関わりを持ち、サテライトの存在や活動を知って頂くことができた。

グリーンヒル八千代台 訪問介護

【令和6年度 事業報告】

1. 運営状況

昨年度に引き続き、訪問介護の事業所として量的には地域の期待に十分応えられなかった面もありますが、他事業所での利用が困難となった方々を受け入れ、安定的なサービス提供を継続するなど、質的には地域に貢献できていると感じております。この点について、外部のケアマネージャーの方々からの信頼もいただいております。今後のサービス展開における大きなアドバンテージになっていると考えております。

<職員体制・研修について>

- 管理者：1名
- サービス提供責任者：2名
- ヘルパー：6名

1月以降、2名のヘルパーがケガにより療養中ですが、グリーンヒル八千代台居宅のケアマネージャーの皆様のご協力により、大きな混乱はありませんでした。さらに、2月後半には常勤ヘルパー1名が補充され、事業運営は通常の状態に戻っております。

5月の利用者数は38名を見込んでおり、療養中のヘルパーが復帰すれば、さらなる依頼にも対応可能と見込んでおります。

研修については、フォローアップ研修に加え、オンデマンド研修に関する情報も積極的に収集し、常勤職員ができるだけ視聴できる環境を整えています。事業所内では参集研修も定期的実施しており、参加できなかった職員には別日に伝達研修を行って対応しております。

また、現場研修としての同行訪問も継続しており、現在、常勤ヘルパー2名が指導者として育成にあたることで、指導スキルの向上を図っています。

2. 課題と今後の方針

2025年6月1日より、事業所を「南デイホーム」2階へ移転し、新たな形での事業展開を進めてまいります。

新たな環境での業務には予測できない課題も発生する可能性があります。一つひとつ丁寧に解決し、職員が働きやすく、利用者の皆様にとっても利便性の高い事業所を目指してまいります。引き続き、地域への貢献を意識した運営を継続してまいります。

令和6年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
実績人数	29	30	30	30	29	30	30	31	30	31	32	33

グリーンヒル八千代台南デイホーム
【令和6年度 事業報告】

1. 目標

地域密着型通所介護事業所(定員 10名)

介護度 1.4(R4.6)→2.4(R5.3)→2.3(R6.3)→2.1(R7.3)

登録者 5名(R4.6)→14名(R5.3)→13名(R6.3)→14名(R7.3)

平均利用者数/日 1.3名(R4.6)→3.9名(R5.3)→4.6名(R6.3)→4.6名(R7.3)

- ・令和6年度見学者数 10名に対し、利用になった件数は2件と少なく、説明等の技術向上が必要。新たに契約まで至った他法人事業所は、2件に留まっている。繋がりのない事業所への営業を強化していく必要がある。
- ・受診等の理由によるキャンセルに対し、振替対応が少なく、事前に振替の提案をしていくことが必要。担当者会議や状況を通してケアマネージャーや本人、ご家族に適切な利用回数増を提案し、5名は、当初のプランより回数が追加することができた。

2. 内容

- ・多職種間の相互理解・業務把握が不足している、小まめに申し送りの実施及びお互いの業務の見える化のルール作り、日頃のミーティング、コミュニケーションの強化を行なって共に、接遇・技術面・帳票記述内容で、時折丁寧さが不十分になってしまっている時がある。研修などを通して、基本に立ち回りサービス一つ一つを親切丁寧に行い、職員の自己研鑽、チームケアの質の向上が必要と考える。
- ・今後の改定に向けた、訪問介護事業所との協力関係を築くための体制づくりが必要不可欠となっている。

3. サービス提供について

- ・毎日工作や脳トレ、パン作り・外出・収穫体験・夏祭り・クリスマス会・日々の機能訓練などを通して、日常生活動作の向上に努めることができた。
- ・多職種連携を活用し、自宅に近い環境での入浴介助を実施することで、自立入浴維持・向上に努めることができたと思われる、自宅バスボード導入など自宅入浴環境の改善等の支援が実施できている。
- ・地域のお祭りやイベント、認知症カフェ・体操教室などの行事に参加することで、地域密着事業所としての地域連携を図ることができた。
- ・中期目標として3年かけて強化したサービス特徴「パン作り・AI活用した機能訓練・外出行事」を行うことで開所時より収支の改善が行う事ができた。

グリーンヒル八千代台キッズルーム 令和6年度報告書

令和6年度の利用者延べ人数、幼児395名・学童258名でした。
感染対策を講じて施設の行事に参加しました。

- 6月27日（木） 千葉県認可外保育施設に対する立入調査
- 8月 7日（水） 夏祭り
ヨーヨー釣りやボールすくいをして遊び、かき氷・焼きそば・フランクフルトを食べました。
- 10月31日（木） ハロウィーン
仮装をしてご利用者様と触れ合い、お菓子を頂きました。
- 3月 5日（水） いちご狩り
小規模多機能サテライト勝田台のご利用者様と一緒に、いちご狩りに行きました。
- 3月29日（土） 春休み企画
たこ焼き・カステラ・クレープを小学生が中心となって調理を行い美味しく頂きました。

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	40	24	21	23	24	24	24	36	26	50	52	51	395 名
学童	9	26	13	27	41	28	14	23	20	18	20	19	258 名
合計	49	50	34	50	65	52	38	59	46	68	72	70	653 名

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	58	50	40	46	56	60	64	70	66	60	64	81	715 名
学童	2	11	1	2	12	3	2	7	8	6	18	24	96 名
合計	60	61	41	48	68	63	66	77	74	66	82	105	811 名

以上

令和6年度 ふらっとホームグリーンヒル活動報告

参加者実績

開催月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
開催回数(回)		5	4	4	5	4	4	5	4	4	4	3	4	50	
参加者(人)	大人 300円	174	143	155	214	173	171	207	163	201	169	136	173	2079	
	(うちボラ)	17	12	15	21	12	11	12	17	12	14	7	22	172	
	(うち職員)	9	6	8	5	7	7	6	6	4	7	5	6	76	
	(うち施設 ご利用者)	14	10	11	15	10	8	10	8	12	7	4	5	114	
	子ども 100円	111	106	121	173	101	129	172	138	135	167	152	155	1660	
	その他 0円	0	4	4	8	2	3	5	4	6	1	2	1	40	
	学生 0円	1	0	0	2	1	4	2	3	2	0	0	0	15	
	喫食小計	286	253	280	397	277	307	386	308	344	337	290	329	3794	
	未喫食	大人	11	13	8	10	10	16	11	10	6	11	10	8	124
	子ども	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
参加者計	297	266	288	407	287	323	397	318	350	348	300	337	3918		
地域参加者数	274	256	277	392	277	315	387	310	338	341	296	332	3795		

※地域参加者数：職員/施設ご利用者を除く参加者

地域参加率	97%
子ども参加率	42%

開催イベント

月	イベント名	対象	内容
6	おやつ体験会	学童	近隣学童の児童を招いて実施。ふらっとホーム周知の為。
8	夏祭り	学童	施設行事の夏祭りに学童の児童手作りの屋台を誘致。児童と共に地域に向けた祭りを盛り上げた。
8	八千代カレーイベント	地域	地域の八千代カレー推進イベントに参加。ふらっとホームオリジナル八千代カレーのアイデア募集、選考、調理、提供までを実施。第1弾「笑顔あふれるリボンちゃんカレー」
9	八千代カレーイベント	地域	第2弾「星降る夏の家カレー」
10	八千代カレーイベント	地域	第3弾「月夜の大噴火カレー」
10	ハロウィン	学童	近隣の2学童の児童を招いて実施。屋外でゲームを2種類、お土産にお菓子をプレゼント。
10	ふれあいフェスタ	地域	地域のバザーに参加。ふらっとホーム・クリスマスイベント周知の為。献品を募り販売。
12	クリスマス会	地域	地域のボランティアに依頼し、ロースターキー他クリスマスメニューの調理、提供。新規ボランティアの協力によりロリポップチョコレートのブースの展開。ご寄付いただいた文房具やお菓子の配布。
12	学童クリスマス会参加	学童	サンタとトナカイに扮した職員が近隣2学童のクリスマスイベントに参加。手作りのおもちゃとお菓子をプレゼント。
12	寄付品配布	地域	冬休み期間の食事応援の狙いでご寄付いただいた食品を、ふらっとホーム参加の子どもに配布。
12	餅つき	学童	施設行事の餅つきにふらっとホームより学童を招待。
1	獅子舞	学童	獅子舞に扮した職員が近隣2学童を来訪。新年の健康を祈念した。
3	春のランチ会	学童	ご寄付いただいた食材を使用し、春休み中の学童児童に向けてランチ会を開催。
3	寄付品配布	学童	春休み期間の食事応援の狙いとしてご寄付いただいた食品を、学童児等に向けて配布。

ご寄付報告

お名前(順不同)	内容	用途
中村悟 様	米・鶏肉・豚肉・ハンバーグ・ウインナー・塩鮭・チョコレートケーキ・アイス他	食事、デザート
吉井正信 様	野菜等	食事
(株)わくわく広場 様	野菜・果物	食事、配布
(株)コーシン乳業 様	小パック牛乳・フルーツジュース	毎食のデザート
遠藤章雄 様	上記商品運搬	イベント時の飲料、配布
(株)アーステクニカ様	活動援助金・米・レトルト食品・文房具・お菓子等	食材料費、食事、配布
(福)悠久会八千代城 様	米	食事
地域の皆様	食品等	食事

令和6年度 グリーンヒル八千代台 地域活動支援事業 予定/実績表

年	月	日	時間	主催	場所	内容	定員	名	実施人数	名
24	4	6	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
24	4	8	13:00~15:00	西北支会 認知症7人	愛宕会館	コグニサイズ	40		35	
24	4	19	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		8	
24	4	19	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)認知症をもとに作ったお菓子作り体験	30		25	
24	4	21	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	5	10	9:30~11:00	勝田台公民館	勝田台公民館	料理教室	8		8	
24	5	13	13:00~15:00	西北支会 認知症7人	愛宕会館	コグニサイズ	40		22	
24	5	14	10:00~12:00	勝田台包括	勝田台会館	予防教室(体操)	15		18	
24	5	17	9:30~11:00	食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		8	
24	5	17	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		5	
24	5	17	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)脱水・水分について	30		12	
24	5	18	9:00~10:00	八千代台自治会	八千代台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	5	18	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		9	
24	5	19	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	5	22	10:00~12:00	勝田台公民館	勝田台公民館	エンジョイ・ライア講座コグニサイズ	15		11	
24	6	1	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
24	6	5	13~15	八千代台北東支会	北東自治会館	オレンジカフェ (みんかい)	40		27	
24	6	10	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	体力測定	40		23	
24	6	13	10:00~12:00	勝田台包括	サンコーボ勝田台	予防教室(栄養)	15		15	
24	6	14	9:30~11:00	勝田台公民館	勝田台公民館	料理教室	8		8	
24	6	16	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	6	21	9:30~11:00	食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		8	
24	6	21	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		4	
24	6	21	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)まきこしの仕組みと補助器具の体験	30		18	
24	6	25	10:00~11:30	八千代台包括	東南公共センター	予防教室(栄養)	20		15	
24	7	6	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		6	
24	7	8	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	認知症と薬 (アイゼン薬局)	40		18	
24	7	12	9:30~11:00	勝田台公民館	勝田台公民館	料理教室	8		8	
24	7	17	13:30~15:15	勝田台包括	勝田台自治会館	予防教室(栄養)	8		8	
24	7	19	9:30~11:00	食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		8	
24	7	19	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		6	
24	7	19	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)コグニサイズ	30		5	
24	7	20	9:00~10:00	八千代台自治会	八千代台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	8	5	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	色かるた	40		19	
24	8	16	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)介護保険にかかるお金の話	30		20	
24	9	7	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
24	9	9	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	認知症サポーター養成講座	40		20	
24	9	13	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)栄養と認知症	30		11	
24	9	19	9:00~12:00	千葉市	海浜行楽小学校	認知症サポーター養成講座 (4.5年)	100		100	
24	9	20	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		3	
24	9	21	9:00~10:00	八千代台自治会	八千代台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	10	5	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
24	10	14	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	新聞スリッパ、災害時の口腔ケア	40		20	
24	10	18	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		5	
24	10	18	9:30~11:00	食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		9	
24	10	18	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)歌って楽しく～音楽療法～	30		13	
24	10	20	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	11	2	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
24	11	9	10:30~12:00	千葉市	高州小学校	認知症サポーター養成講座	50		50	
24	11	10	10~11:30	サンコーボ自治会	サンコーボ勝田台	無事でオナール	15		14	
24	11	13	10:00~11:30	八千代台包括	八千代台公民館	予防教室(栄養)	15		15	
24	11	18	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	椅子ヨガにチャレンジ	40		20	
24	11	15	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		15	
24	11	15	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)人生会議もしばなカード	30		17	
24	11	15	9:30~11:00	食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		9	
24	11	16	9:00~10:00	八千代台自治会	八千代台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	11	17	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
24	11	21	9:25~12:00	(社協) 西北支会	八千代台西小学校	車椅子講座	80		80	
24	11	27	9:25~12:15	社会福祉協議会	八千代中学校	福祉、防災講話・DIG・クロスロード	136		136	
24	11	28	9:25~12:15	社会福祉協議会	八千代中学校	HUG	136		136	
24	12	4	9:00~12:00	勝田台包括	勝田台公民館	料理教室 (男性)	8		8	
24	12	7	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
24	12	9	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	折り紙作業	40		20	
24	12	12	9:00~12:00	勝田台包括	勝田台小学校	認知症サポーター養成講座	50		50	
24	12	13	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)クリスマスイベント	30		20	
24	12	20	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		30	
24	12	20	9:30~11:00	食まち勝田台	勝田台公民館	料理教室	12		9	
25	1	10	9:30~11:00	勝田台公民館	勝田台公民館	料理教室	8		8	
25	1	15	13~15	北東オレンジカフェ	北東会館	オレンジカフェ (認知症サポーター養成講座)	40		30	
25	1	17	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		4	
25	1	17	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)認知症について	30		17	
25	1	18	9:00~10:00	八千代台自治会	八千代台駅周辺	ゴミ拾い			1	
25	1	18	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		8	
25	1	19	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
25	1	20	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	コグニサイズ	40		22	
25	2	1	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		6	
25	2	10	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	ミュージックケアを体験しましょう	40		20	
25	2	14	9:30~11:00	勝田台公民館	勝田台公民館	料理教室	8		8	
25	2	16	9:00~9:15	サンコーボ自治会	勝田台駅周辺	ゴミ拾い			1	
25	2	21	13:30~15:15	コグニサークル	阿蘇台公民館	コグニサイズ	15		5	
25	2	21	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)口腔のお話	30		23	
25	3	1	10~11:30	勝田台体操クラブ	勝田台公民館	柔軟体操	15		7	
25	3	10	13~15	西北支会 認知症7人	愛宕会館	歩行チェック	40		25	
25	3	14	9:30~11:00	勝田台公民館	勝田台公民館	料理教室	8		7	
25	3	21	13:30~15:15	コグニサークル	勝田台公民館	コグニサイズ	15		15	
25	3	21	13:30~14:30	ともカフェ	勝田台会館第1会議室	(認知症7人)お薬のお話	30		20	
25	3	22	9:00~10:00	八千代台自治会	八千代台駅周辺	ゴミ拾い			1	
			13~15:00		南デイホーム	手芸教室 [毎週水曜日]	定員 7人			

栄養班[小川・保利・岡田] 体操班[大塚PT・武田PT] 地域班[角掛・保坂・野口] 絆7人班[大竹・玉井] 絆7人班[上田・花島]
 食街勝田台サークル 石川様 484-1557 勝田台公民館(久保田様) 047-485-5202 西北認知症カフェ 保坂・居嶋・特島
 勝田台体操クラブ 紺根 047-483-7538 コグニサークル 齋藤 様 047-484-2574 ともカフェ 大竹・町口・多田

2024年度 施設内外研修等 実績

月	事業所会議	全体会議 及び(★)ミーティング	法定研修	教育研修委員会			防災訓練・救命講習	その他 施設外研修等
				人材育成研修	法人全体研修	-認知症・介護過程		
4月	第一月曜日・リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★4/2(火)生産性向上委員会 ・2023年度 自グループケアの 振り返り(ケアの評価・改善)	※お茶の水のケアサービス学 院院 740-747研修にて実施	※1 DOオンラインセミナー 人 材育成メンツッド シラバス参照	4/1(月)・4/2(火) 『新入・中途職者研修』 ・高齢者虐待・身体拘束について ・感染症について	※排泄関係 ※入浴関係 等随時	4/1(月)新入・中途入職者 ・防災訓練、演習 ・BCP確認	※認知症介護基礎研修 (無資格者=オンライン) 7/11、25 8/8、22 9/5、19 10/3 受講 社会福祉主事任用資格研修 4/1~
	第三月曜日・感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・感染症予防及びまん延防止 4/15受講					
5月	5/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会	★5/1(水)生産性向上委員会 ・2024年各フロアーのケア の理念の構築						
	5/20 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	全体会議 ・感染予防研修	・身体拘束の廃止 5/30受講 ・食中毒予防及びまん延防止 5/24受講		31日(金) ・認知症とは？(基本) 日高 和枝	※認知症ケアに関する事例検 討等については、各ユニット会 議・各事業所において実施す る。 ※認知症介護基礎研修 (無資格者)		
6月	6/3 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★6/1(土)生産性向上委員会						
	6/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・プライバシーの保護の 取り組み 6/14受講 ・接遇マナー研修 6/26受講	※口腔ケアの研修 歯科衛生士による実施指導	『2024年度事業計画発表会』 津川理事長・津川常務・全職員 ・高齢者虐待・身体拘束について ・BCP見直し	第1 認知症実践者研修 6/13、14、24、25、7/29 実務者研修教員養成研修 6/10~	※身体拘束廃止基礎研修	
7月	7/1 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★7/1(月)生産性向上委員会 ★7/12(金)SS委員会 ※全体会議						
	7/22 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・高齢者権利擁護・身体拘 束廃止について	・認知症ケア 7/17受講 ・グリーフケア 8/27受講	※自法人における、介護実務者研修 教室の開設		第1 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会 ※身体拘束廃止研修	※ユニチュード研修	
8月	8/5 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★8/1(木)生産性向上委員会 ★8/9(金)SS委員会						
	8/19 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・個人情報保護 8/5受講 ・虐待防止に関する研修 (身体拘束排除) 8/28受講	褥瘡対策に関する継続的教育	27日(金) ・認知症 BPSD 日高 和枝	第2 認知症実践者研修 実務者研修 8/1~	・交通安全に係る教育 ※『初期消火活動競技大会』 ※『初期消火活動競技大会』 八千代市防災協会 ・通報・初期消火・避難誘導	※ 身体拘束廃止専門研修
9月	9/2 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★9/2(月)生産性向上委員会 ★9/13(金)SS委員会 ※全体会議						
	9/16 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・ターミナルケア(終末医療) について	・認知症の予防 9/10受講 ・身体拘束の廃止 9/2受講			千葉県認知症リーダー研修 第2 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	・9/10(火)7:00~11:15 『法人全体防災訓練』 『BCP訓練』 ・9/10(金)9:30~12:00 『初期消火活動競技大会』	※ 身体拘束廃止基礎研修
10月	10/7 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★10/1(火)生産性向上委員 会 ★10/11(金)SS委員会						
	10/21 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	(ハラスメント防止に係る件 数及び労災等の件数報告)	※事故の発生予防・再発防止 ・リスクマネジメント 10/1受講 ・感染症予防及びまん延防止 10/29受講	『喀痰吸引等実地』に関する継続的研修	・9/30(月)中途入職者対象 『中途入職者研修』 ・高齢者虐待・身体拘束について ・感染症について	千葉県認知症リーダー研修 認知症リーダー研修・報告会 第3 認知症実践者研修 ※認知症介護基礎研修(無資格者) 千葉県ユニットリーダー研修 10/1、2、3(実地)	・9/30(月)中途入職者対象 ・防災訓練、演習 ・BCP確認	※ 身体拘束廃止基礎研修 10/8、10 1/10、16
11月	11/11 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★11/1(金)生産性向上委員 会 ★11/8(金)SS委員会 ※全体会議						
	11/25 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・感染症及び食中毒の発生 の予防等に関する研修	・認知症ケア 11/15受講 ・緊急時対応 11/6受講	・高齢者・障害者施設向け 感染症予防研修及び実地訓練	第3 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	勝田台地区防災訓練 サンコーボ自治会と協働	※ 身体拘束廃止指導者研修 (指導者養成) 11/26、12/23	
12月	12/2 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★12/2(月)生産性向上委員 会 ★12/13(金)SS委員会						
	12/16 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進		・看取り期に関する研修 12/3受講	※口腔ケアの研修 歯科衛生士による実施指導	『2024年度事業計画中間報告会』 津川理事長・津川常務・全職員 ・高齢者虐待・身体拘束について ・BCP見直し	第4 認知症実践者研修		※ 身体拘束廃止専門研修 11/29、12/4
1月	1/6 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★1/2(木)生産性向上委員 会 ★1/10(金)SS委員会						
	1/20 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	※全体会議 ・リスクマネジメント研修	・虐待防止の考え方 1/14受講 ・虐待防止知識 1/27受講		28日(金) ・認知症ケア 日高 和枝	第4 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会 ・非常災害時の対応に関する研修	『夜間想定防災訓練』 ・避難誘導	※アセッサー研修 1/10~進行形
2月	2/3 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★2/3(月)生産性向上委員 会 ★2/14(金)SS委員会						
	2/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等		・指導側接遇マナー研修 2/5受講 ・高齢者虐待、不適切ケア 2/10受講 ・非常災害時対応 2/26受講	『喀痰吸引等実地』に関する継続 的研修		第5 認知症実践者研修	サテライト勝田台防災訓練 サンコーボ自治会と協働	※ 身体拘束廃止指導者研修 (指導者養成) 2/12、17
3月	3/3 リスクマネジメント 虐待防止検討委員会 身体的拘束訂正化検討委員会	★3/3(月)生産性向上委員 会 ★3/14(金)SS委員会 ※全体会議						
	3/17 感染症対策委員会 安全衛生委員会(褥瘡対策等) ハラスメント防止等/生産性向上推進	・法令遵守・秘密保持及び倫理	・倫理及び法令遵守 3/10受講 ・要介護進行予防研修 3/26受講			第5 認知症実践者研修 認知症実践者研修・報告会	防災・安全管理研修 『救命講習』 ・3/28(金)10:00~11:00 『夜間想定防災訓練』	

※リスクマネジメント……事故防止検討委員会

2024年度 IDOオンラインセミナー 人材育成メソッド シラバス

月	基礎	コアスタッフ		リーダー
研修名	求められる介護人材育成コース ～尊厳と自立、そして配慮の実践者へ～ 毎月 第3水曜日 14:00～15:30(16時までSV)	職場でのOJTトレーナー養成 コース 偶数月 第2木曜日 14:00～15:30(17時までSV)	プレリーダー養成コース 奇数月 第2木曜日 14:00～15:30(17時までSV)	リーダー・マネジメント職向け 『グループスーパービジョン』 奇数月 第4金曜日 14:00～16:00
ねらい	【自律性】基礎力をもとに臨機応変な対応・判断・実践力を活かす「気づき」の習得 【協働性】同業同職種、多職種でチームを組み、その効果を最大化する 【人間性】道徳観 倫理観を土台に、よりよい人間関係を築ける	「聴く」「伝える」「教える」が出来る人材としてのブラッシュアップ！ 採用後の職員定着率を左右するOJTやスーパービジョンを実施するトレーナーとして現場における教育の質を向上させるためのスキルを学びます。	いつリーダーになっても良い状態を創り出すためのリーダー基礎スキルを徹底的に磨きます。 現場の中で主体性・自主性を高め、多様性を受け入れることで、職場を活性化する取り組みです。	学びを実践へ。その過程で生じる様々な課題をグループスーパービジョンでヒントを得るための機会です。 また、自身がスーパーバイザーとしてのスキルを高めることも目的です。
4月	なりたい自分と、求められる援助者像 R6.4.17(水)	人に仕事をレクチャーするOJTのポイントと注意点 R6.4.11(木)		
5月	援助者としての自己覚知 R6.5.15(水)		戦略的思考トレーニング①課題解決に必要なファシリテーション R6.5.9(木)	グループスーパービジョン R6.5.24(金)
6月	対人コミュニケーションスキル R6.6.19(水)	OJTチェックと信頼関係づくりのポイント R6.6.13(木)		
7月	困難を乗り越えるアセスメントの力とは R6.7.17(水)		戦略的思考トレーニング②目標設定・計画立案力を高める R6.7.11(木)	グループスーパービジョン R6.7.26(金)
8月	要介護が必要な方の家族背景を知る R6.8.21(水)	具体的な指示を出すためのティーチング R6.8.8(木)		
9月	介護技術のオンライン講座 ①移動と移乗 R6.9.18(水)		戦略的思考トレーニング③聴く力 R6.9.12(木)	グループスーパービジョン R6.9.27(金)
10月	失敗体験リフレクションで学ぶ認知症による症状と関わり R6.10.16(水)	コーチングの正しい理解 R6.10.10(木)		
11月	介護技術のオンライン講座 ②自立支援の考え方 R6.11.20(水)		戦略的思考トレーニング④伝える・考える力① R6.11.14(木)	グループスーパービジョン R6.11.22(金)
12月	チームで頼られる「フォロワーシップ」を発揮する R6.12.18(水)	スーパービジョンを実践しよう R6.12.12(木)		
1月	脳機能から学ぶ認知症の理解 R6.1.15(月)		戦略的思考トレーニング⑤伝える・考える力② R6.1.9(火)	グループスーパービジョン R6.1.24(水)
2月	『介護現場での体験』をテーマとしたリフレクション R6.2.19(月)	正しい評価とフィードバック R6.2.13(火)		
3月	援助者としての7つの原則 R6.3.19(火)		効果的なメディア戦略と、情報発信 R6.3.13(水)	グループスーパービジョン R6.3.28(木)

令和6年度 事業報告

グリーンヒル放課後等デイサービス村上

1. 事業所目標について

① 稼働率 年間稼働率 90.7% 在籍児童数 29名

- ・村上地区の小学校2校に支援級が増設されたことで、新1年生・2年生の利用数が増加し、新しい雰囲気の中で、児童の利用状況も毎日10名の定員に近づく傾向が見られた。しかし、利用者本人や家族の感染、利用者の体調不良や情緒の不安定さによる欠席も見られたため、稼働率の安定は見られなかった。また、祝祭日や長期学校休業日等は利用者が減少するため、目標の稼働率95%を達成することができなかった。

2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・学校での実態に合わせ、マスクの着用は利用者の判断に任せた。引き続き健康観察には留意し、座席のスペース確保や食事中の黙食等は継続指導の徹底を図っている。
- ・毎月の茶話会は感染症対策を講じて開催した。利用者の対象が小学生の為、ゆりのき台事業所と合同開催とした。

3. サービス提供について

- ・開設9年目となり、多くの新規利用児童の登録で、新体制の展開となった。特に、新規利用者の特性の理解と療育方法について職員間で共通理解を図りながら、支援を行った。利用継続児童にはキッズ活動が定着しているが、さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・3事業所となり、活動の幅が広がった。屋外活動や地域の行事への参加は、児童生徒にとって貴重な体験の場となった。中学生が加わったことで学年に応じた役割分担や多様な集団活動が可能になり、互いの交流が深まってきている。活動の様子は、ブログや毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

令和6年度 事業報告

グリーンヒル放課後等デイサービスゆりのき台

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 100% 在籍児童数 37名

利用児童の大きな入れ替えはなく、昨年同様の活気ある活動を行うことができた。

小学校を卒業した中学1年生がジュニアに移行せずそのままゆりのき台の利用を希望したため、毎週火曜日は夕方から小学生と中学生が混在し、お互いに学び合えるよい時間になっている。このように、様々な場面で社会性を育みお互いを思いやる土壌が根付き、明るくのびのびと子どもらしく過ごすことができた。

2 事業内容について

- ・児童一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
こどもが高学年になるに従って指導内容もむずかしくなるので、職員の教科指導に関する研修時間を増やし対応している。
- ・不登校の児童や家庭での問題行動には、24時間体制で対応している。特に、家庭での問題行動は夜間に起こることが多く、その時に関係機関との連携を図ることは困難である。キッズがその役目を果たし、のちに関係機関とのパイプ役となり、保護者の思いを伝えるべく相談機関を求めてより良い手立てを検討しているが、なかなか個々の状況改善には至っていない。
- ・茶話会は、4月5月6月9月10月11月12月の第3木曜日に開催した。
保護者間の情報共有・キッズと保護者との信頼関係構築に大きな役割を果たしている。

3 サービス提供について

- ・開設7年が経過し、充実した職員数の中で事業経営を行うことができた。
- ・後半で正規職員の退職の申し出があり、人材確保のために多くの時間を費やした。
- ・今後も職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・利用希望児童の申し出は多いが、定員に達しているため、待機児童が増えている。
- ・一人一人の児童の状況把握のためには、今後も関係機関(特に学校など)との連携を密に図り支援に生かす必要があると考える。
- ・3事業所(村上・ゆりのき台・ジュニア)になったことで、夏休みのデイキャンプや市内高校生との朗読劇コラボなど合同活動を行うことができた。今までにない活動内容で、こどもたちの中に潜在していた力を引き出し個性を伸ばす良い活動となり、自己肯定感の高まりにつながった。
- ・毎月発行している利用申請書に児童の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。外出活動はブログにも掲載し発信している。

令和6年度 事業報告

グリーンヒル放課後等デイサービス ジュニア

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 77.1% 在籍生徒数 29名

中学生であることから、部活動や委員会活動など、学校での活動に主体的に参加することが多く、また、利用者の多くが3年生であったことから、より部活動を優先することが多かった。体調不良で休む利用者は少なく、イベント時の利用者が多くなる傾向にある。令和7年度は、3年生の比率がさらに上がるので、より魅力的な活動内容を事業所内、およびキッズ3事業所で連携して検討、実施をしていきたい。

2 事業内容について

- ・生徒一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・虐待問題を抱えている生徒や、不登校の生徒には、関係機関と協力して対応している。関係機関との連携により、生徒が親と切り離された生活から通常の生活に戻り始めた事例は続いている。情報交換と支援が必要である。
- ・茶話会は、感染予防に対する十分な配慮のもと、5月6月9月10月11月12月の第3木曜日に7回開催した。

3 サービス提供について

- ・開所3年。初めての高校受験、中学卒業を迎える生徒と関わり、試行錯誤の毎日であった。特に受験が近づく年末年始には、今まで行ってきた学習支援・ソーシャルスキルの向上のほかに、作文、面接等、生徒に合わせた支援を行ってきた。職員の経験、工夫が特に生かされた場面であった。
- ・利用希望生徒の申し出は多いが、キッズジュニアとしての質を維持し、さらにより良い療育を行うため、待機していただいている状況である。
- ・一人一人の生徒の状況把握のためには、関係機関(特に学校など)との連携は必須であり、今年度はさらに強い連携を図ることを考えている。
- ・外出活動が増え、ブログ等による情報発信ができた。あわせて、毎月発行している利用申請書に生徒の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。
- ・長期休みなどは、グリーンヒルキッズ(ゆりのき・村上)と合同の活動を行い、ソーシャルスキルの向上に適した取り組みを行うことができ、効果的であった。

令和6年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業報告
(自立援助ホーム)

1. 運営状況 (1日付の在所人数)

- ・年間延べ人数 42名、月平均 3.5人であった。
- ・新規入所：2月1名、3月1名の合計2名。
- ・退所人数：8月1名、3月1名、合計2名。
- ・一時保護入所：2月1名、3月に1名の合計2名。
- ・相談件数 11件
- 見学面接 7件
- うち、先方断り 5件

理由 都内まで遠い・ホームの雰囲気(子どもがリビングで大笑いしていた)・母が八千代市勤務

2. 支援内容について

- ・入所児の構成は、通信制高校生(18歳)2名、社会人(高校中退17歳)1名、専門学校進学準備(18歳)1名、通信制高校進学予定(16歳)1名、中学生(15歳)1名であった。
- ・生活支援、学生生活継続の支援、進学支援、就職支援、アルバイト先探し、補助金等資金集め、親子関係の修復調整、様々な場所での人間関係づくりなどの支援を行った。
- ・個々の子どもの状況に応じて医療機関への関わりのフォローを行った。特に精神科病院の受診先、入院先探しでは、東京女子医大八千代医療センターのMSW、千葉県医療センターの担当の方と連携をとり受診先の選定を行った。

3. 研修(外部)

- ・第16回全国自立援助ホーム長研修会(令和6年4月23日～24日)
- ・全国自立援助ホーム協議会 第29回 福岡大会(令和6年7月5日～6日)
- その他、児童虐待、アフターケアなど

4. 会議

- ・毎月1回 (職員会議)

5. 年間の利用状況 (1日付在所)

単位：名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
措置	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	40
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
合計	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	4	42

6. 今後の課題

- ・令和6年7月1日よりホーム長が交代となりました。
関係各所(千葉県、各児童相談所など)との円滑な関係を構築し安定した施設運営に努めます。知的障害や発達障害の入所打診が増える中、放課後デイサービスと連携をとる事で、そのような子ども達の支援の在り方など、安心安全な支援できるようスキルアップをしていきます。スタッフ同士の繋がりを深め、更なる知識を学ぶことが必須と考える。今後も、テーマを絞らず、色々な研修を受け、より充実した支援をしていきます。

以上

令和6年度 勝田台地域包括支援センター報告書

1. 勝田台地域高齢者状況 (R7.3月末現在)

勝田台生活圏域人口16,299人 高齢者人口5,198人 後期高齢者数3,663人 高齢化率31.9%。

高齢者人口や高齢化率はピークアウトし低下してきているが、85歳以上人数の伸びが顕著に見られている。結果として、介護保険認定者数も増えている状況にある。

2. 事務所来所者状況

1年間に地域包括支援センターへの来所者延べ1,931人と多くの方に来所いただいている。

3. 総合相談事業実績

1年間の総合相談数延べ6,739件で、電話4,624件、来所948件、訪問867件。新規でも、901件と相談受付は多い。相談内容としては介護保険や介護に関するものが多い。相談者としては本人・家族、介護支援専門員からの相談が上位を占める。令和7年度からは八千代市で重層的支援体制整備事業が開始されることを踏まえ、複合的な課題がある相談については、センター内の多職種で協議するようにした。ひとつの世帯に異なる属性の対象者の課題が複雑に絡み合うような事例がある。

4. 権利擁護に関する実績

○消費者被害防止の啓発 (居宅介護支援事業所や民生委員へのチラシ配布、
勝田台自治会や勝田台小学校と共に街頭でのチラシ配布)

○高齢者虐待対応

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

○個別地域ケア会議実績 3件

○介護支援専門員へのサポート

・個別のケース相談 ・多職種連携研修会の開催

○地域包括支援センター啓発活動

・みんなの体操広場を通して地域住民へ相談機関としての周知

・サンコーポ便りに地域包括支援センターの記事掲載

・長寿会、図書館、サロンでの講演

・支会や民生委員定例会への参加、ファミリーフェスタへの協力を通じ活動の周知

○多職種連携

・研修参加などを通して関係機関と顔の見える関係づくり、相互理解の推進

・八千代市在宅医療・介護連携支援センターへの相談

○地域住民への企画

- ・みんな体操の広場

健康年齢の延伸を目指し、開催。地域住民に向けて定期的な運動の機会の提供や健康への意識増進のため、中央公園で平日の週4日ほど夕方にラジオ体操ややちよ元気体操など実施。年間参加者延べ5, 179人。

○地域の団体の後方支援

- ・お番茶の会 ・ふれあいサロン ・ユーアイオレンジカフェ ・ユーアイサロン

6. 介護予防普及啓発事業

○いきいき教室 15回開催

7. 認知症地域支援・ケア向上業務

○認知症サポーター養成講座・・・若い世代も参加しやすい曜日での開催

八千代高校

勝田台小学校

○家族交流会 ○認知症ケアパスの活用

○認知症初期集中支援チームとの意見交換

○ともカフェの運営

8. 第2層生活支援コーディネーター業務

・男性シニアサロン

・2層協議体の開催

・地域住民の活動支援

・八千代市通所型短期集中予防サービスでの個別支援

9. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間国保連請求総数2, 187件（地域包括833件・委託1, 354件）。

市の委託業務であるセンターの運営があるため担当できるプラン数に限りはある。そのため地域包括で担当しきれないケアプランについて、ケアマネジャー探しをするが、地域の居宅介護支援事業所にもそう空きはない状況が続いている。

10. 連携のための会議

○運営推進会議

- ・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議

- ・ニチイケアセンター八千代勝田台運営推進会議

- ・めいちゃんの家運営推進会議（書面）

- ・ほのぼの運営推進会議

- ・ういず・ユウデイサロン運営推進会議

○民生・児童委員定例会議

○地域包括支援センター各専門職会議

令和6年度 法人本部総務課 事業報告

令和6年度現状報告

従来の求人媒体や外国人採用だけでは人材不足の解消には至っておらず人材確保・人材育成に課題が生じている。令和7年度はこれらの課題に関する検討・対策を教育・研修委員会と協議し、さらに総務・企画室と連携を図りながら補助金や処遇改善加算の活用、人材育成計画等の対策を講じる。

人事関係

○人事労務管理

既存データの移行・新規データ登録についての理解・取組みに時間を要したため、次年度に継続とする

勤怠システム

現行機種をサポート終了に伴う打刻機の入替えやタイムカードの再登録作業は完了したが、打刻データの収集確認やデータの管理権限設定等に時間を要しているため、早期開始にむけて打刻データの蓄積を最優先に取り組みを進めていく。

給与システム

現行システムの給与データを活用し、令和7年1月分給与から紙面による給与明細の配布からスマートフォンへのデータ送信による電子化に移行した。

○通勤時および法人携帯電話使用におけるトラブル回避のための管理規定作成にあたり規定案の作成に留まっており、令和7年度施行に向けて継続して取り組む。

○令和6年度途中の新規取組みとして、新たな人事評価システムの導入・運用に関して導入推進担当から提案があり、業者対応や定例会議・集団説明会の事務局対応に取り組んでいる。令和7年度の実施に向けて導入推進担当と協力しながら準備を進める。

庶務関係

○災害備蓄品の確保のため、非常用電源の導入を優先課題として関係者間で引き続き協議しながら、実現可能な項目から取り組みを開始する。

○インフルエンザや新型コロナの5類移行後もクラスターが少数回発生したこともあり、状況を見ながら備蓄調整を行う。

経理関係

○財務会計システムの伝票とそれに紐づく会計や税務に関する請求書や受領書等の書類を連携することで会計業務の効率化を検討したが、監査時におけるセキュリティ上の課題があり別の方法を含め再度検討する。

情報関係

○全拠点を繋ぐネットワークの構築、ラインワークスの上高野導入および八千代台との情報共有、上高野ネットワーク環境の再点検は実施できなかったため次年度に継続して取り組む。

事業報告書ワード集		
P11	A D L	基本的日常生活動作
P10	B O (ブルーオーシャン)	介護記録システム
P22	E N T	退院
P12	Q O L	ひとりひとりの 人生 の内容の質 や 社会的にみた『生活の質』のこと
P5	アンガーマネジメント	自分の置かれている状況を客観的にとらえ、怒りの感情を整理することで、強い感情を適切にコントロールするための手法
P16	栄養ケアマネジメント	高齢者の栄養・健康状態を把握し、低栄養の予防・改善を図ること
P16	クックサーブ方式	調理した料理をそのまま直ちに提供する方式
P16	クックチルセントラルキッチン	クックチルとは、加熱調理した食材を90分以内に中心部が3°C以下になるまで急速冷却し、0°C~3°Cのチルド状態で保存する方法
P6	拘縮	軟部組織が原因で関節の動きが制限され、正常可動域まで動かせない状態
P21	誤嚥性肺炎	飲み込みが悪くなった食べ物や唾液が気管を通じて肺に入り、炎症を引き起こす病気
P6	除圧	医療分野で使用される用語で圧力を軽減、取り除くこと
P25	小規模多機能型居宅介護	同一の介護事業者が「通所（デイサービス）」を中心に、「訪問（ホームヘルプ）」や「泊まり（ショートステイ）」を一体的に提供する
P4	スタンダード・プリコーション	介護現場で感染症を防ぐための基本的な手洗いや着脱、マスクの着用などの行為のこと
P33	ソーシャルスキル	他者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション能力や社会的な技能のこと
P36	地域包括支援センター	高齢者が地域で安心して生活できるように支援するための機関
P24	特定事業所加算	質の高いサービス提供をする事業所を評価するための加算
P6	離床	ベッドから離れて起き上がること
P5	非言語コミュニケーション	言葉以外の手段によるコミュニケーション
P4	ユマニチュード	「人間としての尊厳」と「その人らしさ」を大切にし、「あなたを大切に思っています」「あなたはここにいますよ」というケアを行う人の優しい気持ちを伝える技法である
P12	余暇活動	余った時間に行う活動
P6	臥床	ベッドや布団に横たわること
P26	L I N E W O R K S	L I N E のビジネス版。組織・チームで使えるコミュニケーションツール